北支

干網

Fishermen's Nets on the Drying-Line

黄河の濁流の物凄さに驚かされる時、こんな酷い水に魚が住めるだらうか、と言ふ錯覺を起す。併し支那には水清ければ魚住まずの句がある通り、黄河のあの原始的な形態の漁船には見事な金鱗が引上げられてゐる。その尤なるものは五尺に餘る鯉である。由來龍門を昇つて龍となると傳へられる處より登龍門をパスした進士への禮品とまでなつてゐた

ここ、黄河の大堤防の上、五月の陽に干された網を見出しては、禹の治水工作に當つて魚族と大いに爭はねばならなかつたことを思ひ出し、中國のかなしみ黄河に生きる漁民の運命と、その歴史の悠久さを想はされる

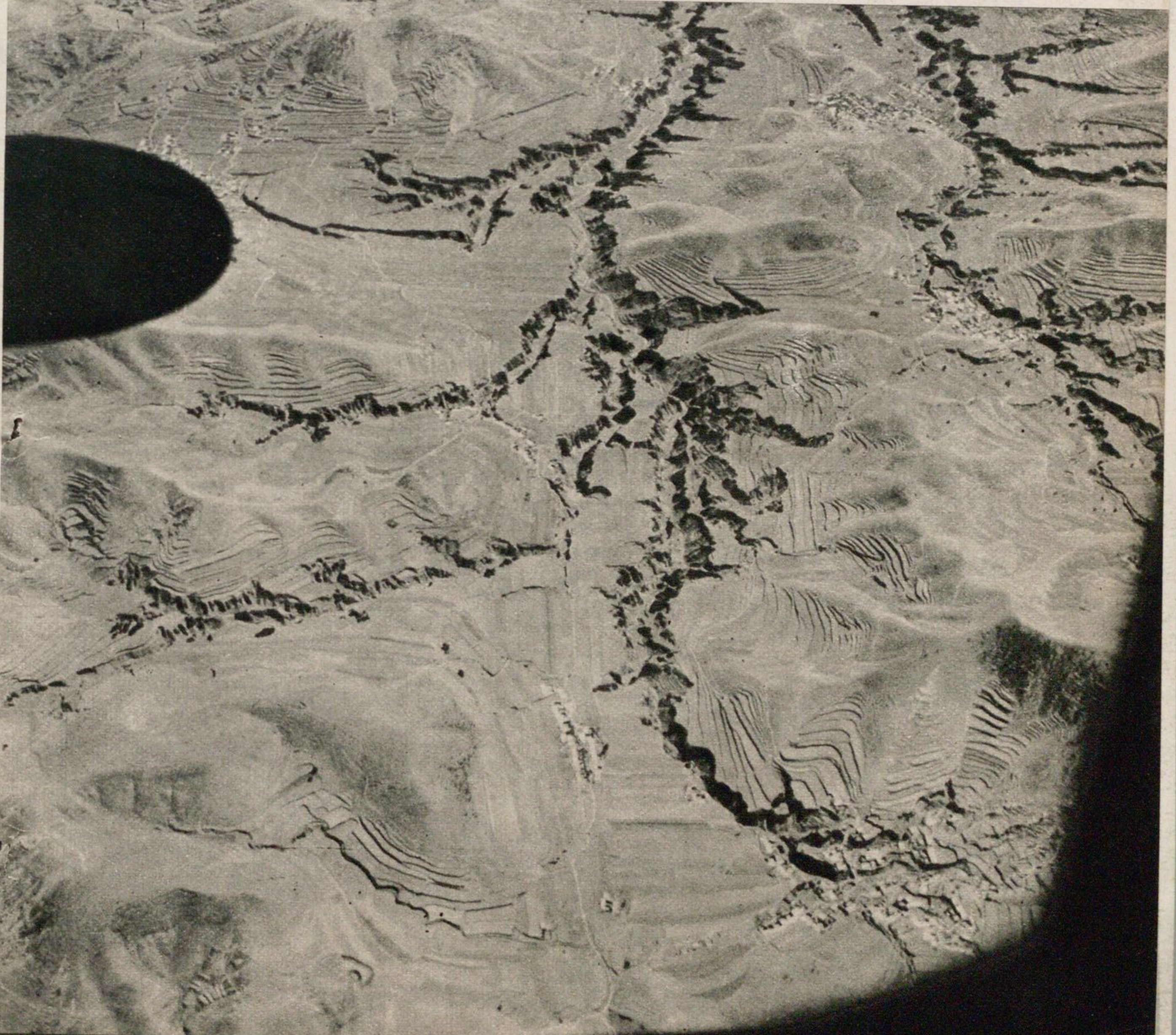
徐州舊黄河畔にて

黄土

Yellow Earth Deposits

支那の高地を旅すると、或は山腹に、山麓に、或は廣く高原狀に發達した黄土の持つ特殊の景觀——スムースな面、階段狀の畑、切り込まれた雨谷など——の美しさが樂まれる。そしてその上に耕し、その中に住み、その上に葬られる人々を思ふと、彼等の文化は黄土を離れてはあり得ないといふことが感じられる。そればかりでなく、此の黄土が流されて或は盆地底に、或は遠く華北の平原に二次黄土として堆積されることを思ふと、北支こそは寔に黄土の國であるといはざるを得ない。そして世界の土の子漢民族に取つて黄土はその母胎であるといふことばかりでなく、此の黄土文化を、來るべき時代の新文化と如何なる形で結びつけ、指導して行くべきかと言ふ使命の下に立つ吾等に取つても、最も重大視すべき自然的な素因であらねばならぬ

黄土は今やその道の專門家に依り種々研究されつつあるので、その成果は各

黄土地層に於ける水蝕作用、寫眞下方に部落が見える

方面より期待されてゐる

一體黄土に類するレスといふのは外國にもあつて、獨逸のラインの畔りで指摘されたのが最初である。その後歐米各地に認められてゐるが、それらの中には支那のレス——黄土とその成因を同じくするものもあらうが、又異つたものもある

黄土の成因如何といふ段になると、大分ややこしい問題になる。風によつて運ばれることも確かである。北支の畑や枯野から捲上げる埃風——地方的な蒙古風になることもある——を看たり更に内蒙の旅にすさまじき旋風に逢ひその過ぎ去つた後から東南へ向ふ黄色い土塵の雲を看た者には一應なる程と感じられる。併し黄土の堆積について見ると、色に變化があつたり、礫があつたり、成層面があつたり、時とすると風化し殘された石英脈があつたりして、水の力も、風化の作用も十分認められる。但しその黄色といふ性質と共に乾燥氣候の所産であることは間違ひない

從つて水に洗はれることが少ないため石灰分などは鑛物質のままであり、腐植質を殆ど含まない。併しそのアルカリ性は水さへ灌げば肥沃さを十分に發揮する。この點中支の酸性土の樣に施肥のみに頼るのと一寸異る—尤も黄土にも缺けた養分はあるが。併し又、低窪の土地にあつては排水不良の場合、そのアルカリ分が白く結晶して地表を覆ふ不毛地を生ずることもある

黄土地帶が水蝕されて谷が出來、谷間は寒風を避けるにはよい住宅地である。蒙疆・張北

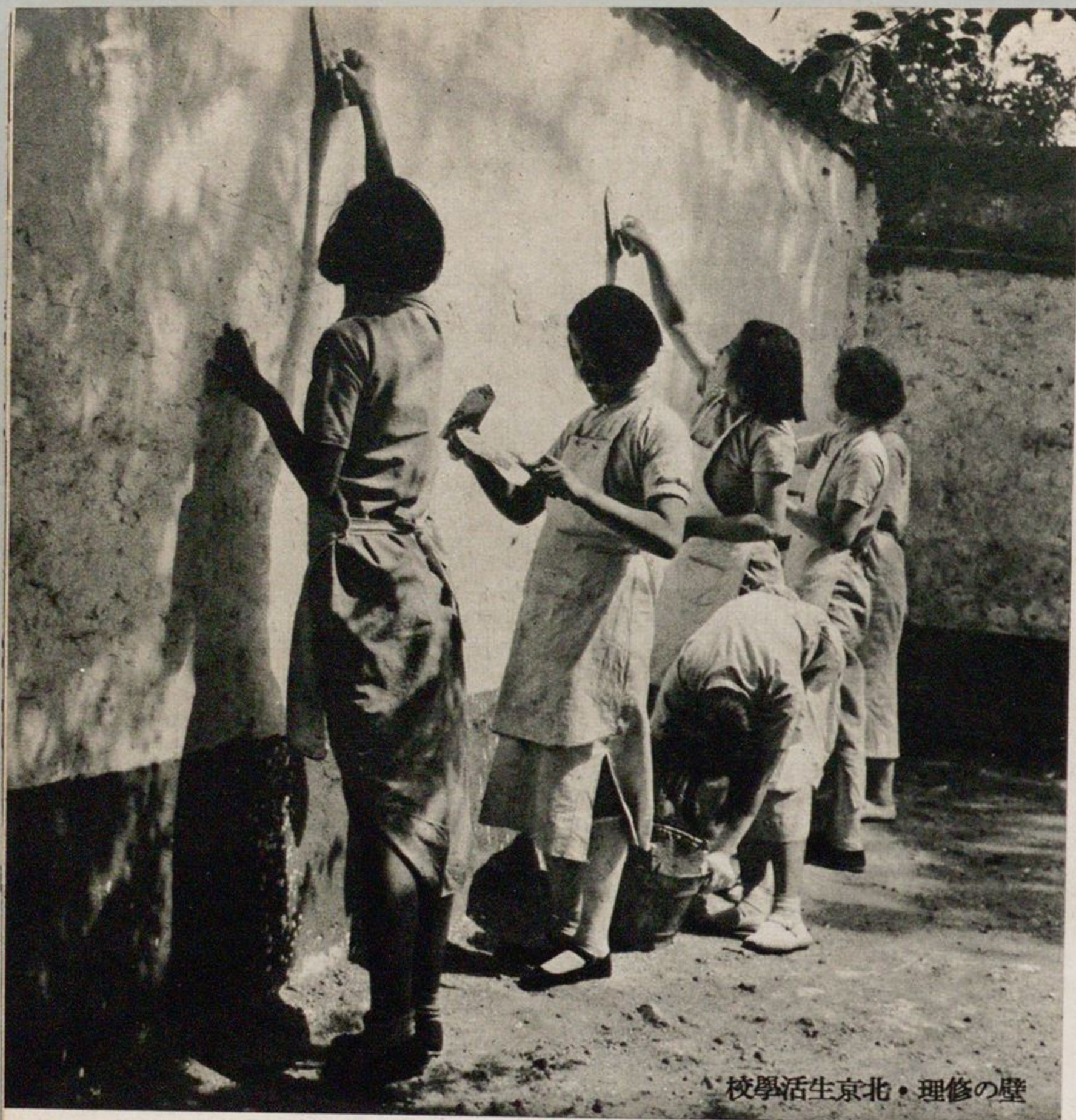
北京生活學校幼兒生活園

華北交通通州農事試驗場の姑娘助手

壁の修理・北京生活學校

洗濯・北京生活學校

北京大學醫學院。日本人先生による犬の解剖

日本人指導の下に

Under the Benevolent

事變の當初、滿鐵社員が天津に乘込んでテキパキと驛務を處理した時、中國人驛員達は眼を廻してゐた。ダイヤルは一變して正確に行はれたのである。之と同じこと、日本人の科學的勤勞精神は今や全華北のあらゆる部面に浸透して中國人をリードし始めた。特に華北の交通網を一手に握る華北交通會社は軍部と一心同體、治安の確保を期する傍、中國人の指導に怠りなく、文字通り興亞の實を擧げてゐる

通州の佛塔

「北支の少し前方とぐちよと申す處に幅二町程の川有之、船橋を架け申候」と「韃靼物語」に記されて居る。これは越前三國浦の船頭達が沿海州に漂着した後、我が寛永廿一年奉天から北京に至る途上の印象を錄した一節でとぐちよとは通州のことであり、幅二町程の川とは白河を指してゐるのである

鐵道の敷設以前、船ではるばる南方から糧食が運ばれた頃は、定つて白河が利用され、更に通州から運河によつて北京へもたらされたものである

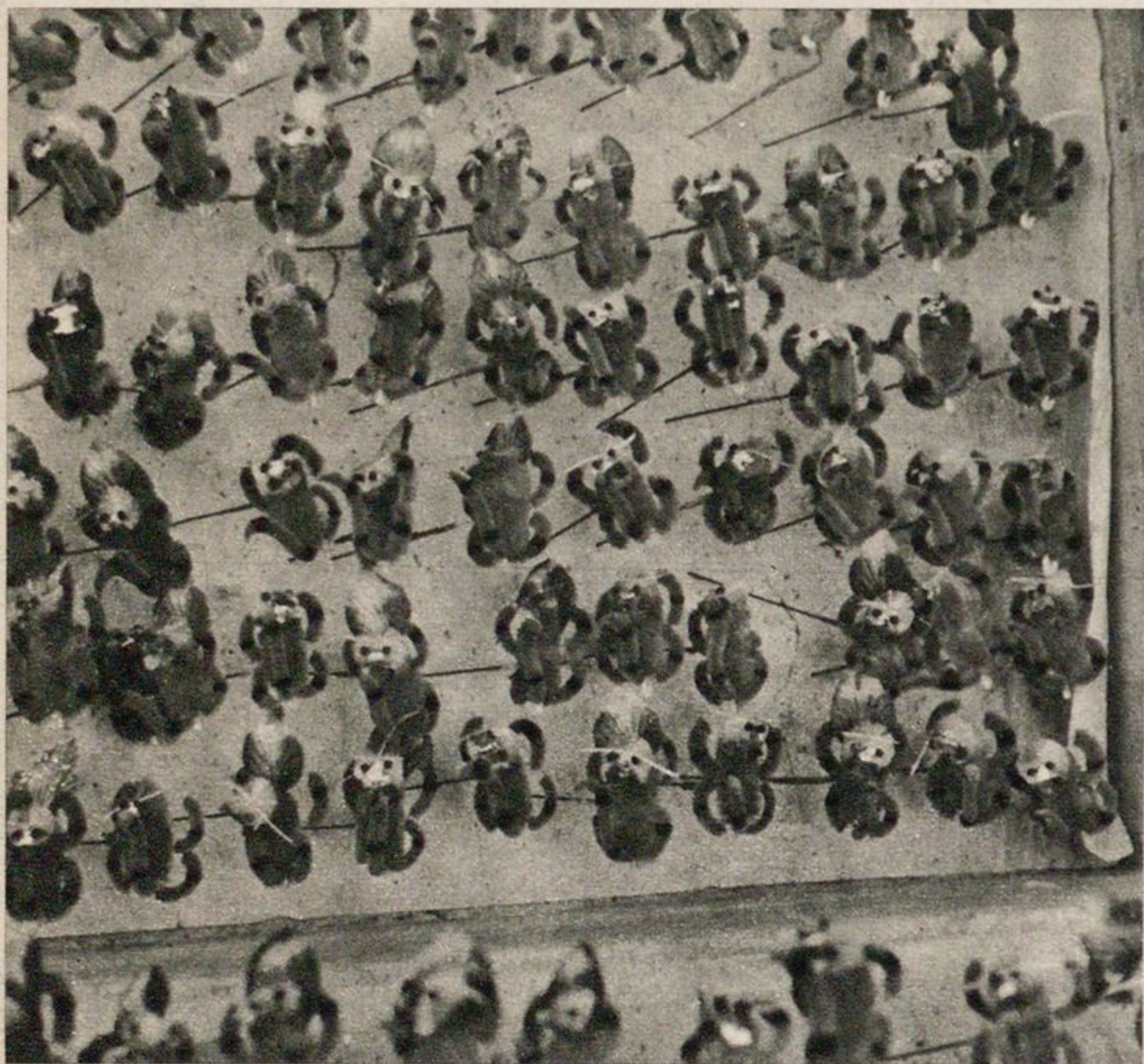
この通州へ近づくと遠く地平線上に佛塔を見ることが出來る。この塔は人夫等の目じるしともなり、また滿洲方面から國都に旅する人々にとつて北京に近づいた心やすさを思はせる存在である

偖てこの佛塔は燃燈佛舍利塔と云ふのが正しい名前で、城內の佐聖教寺に建つてゐる。煉瓦造り高さ約二百八十尺八角十三簷である。基壇には欄干や蓮花座を現はし、塔身は第一層の間隔が廣く、その表面には戸口や格子窓を造り、中を空虛にしてこれに佛像を安置してある。第二層以上は間隔頗る狹く、簷を支へる斗栱を構へるのみである。簷先を見上げると垂木の先端につけられた風鐸も猶相當殘つてゐる。これは曾てその各〻にとりつけられ、從つて總數五百箇餘りもあつたであらう

俗に、唐の貞觀七年初めて尉遲敬德が築造し以後屢次の重修を行ひ、清の康熙十八年地震の爲に傾圮したので、其の後募緣再建したものと傳へてゐる。しかし建築様式から推測すると遼代の建造と考へられ、唐の尉遲敬德によると云ふ話は全く傳說以上のものでない。なほ康熙の際の傾圮も亦果して如何なる程度だつたであらうか。實は今の塔には比較的多く古い趣が認められる

若し水邊に立つて倒影をみつめ、更に蒼穹をつらぬく巨塔を仰ぐと、さすがに名に背かない莊重さが感ぜられる。そして風景として見るならば、如何にも和かだ。これは恰も幾度か此の地が經驗した不幸な出來事を忘れしめる程の魅力を示すものである

The Tower at Tungchou

虎の簪

May in Peking

五月の北京

朱の壁、黄金の甍に五月の太陽は眩しい程の強さである。すべて女性的な北京の性格はどうも氣に食はぬが、溺れたら底なしの魔性に近い

その意味からすれば、北京の花の本領は人工を加へた草花にあると思ふが、私はやはり街頭に爛漫たる胡藤(アカシヤ)の花を好む

而して胡藤の花と瞼に浮ぶのはあの空色の旗袍(チーパオ)を著て腕も露はな女學生の潑剌たる一群である。

舊暦五月端午の節句と云へば日本も同じであるが、新暦にして六月に行はれる。これはその事前に賣出される絨毛製の虎の簪で女の子が魔除けに挿すのである。色は赤と黄と白。眼玉は黒。根附は眞鍮。一ツ十錢位

北京天安門前のアカシヤ

白酒製造

北支で一般に使はれてゐる白酒の瓶子と杯

支那は三代の時分に后羿の子少康（卽ち杜康）が麴醇の法を發明して以來ひろく世に行はれたと云ふ。現在酒の種類は三百餘種でこれを大別して黃酒と白酒に分つ。例へば紹興酒、山東黃、山西黃、花彫など黃酒の類で、高粱酒、白干兒、汾酒は白酒に屬する。其他にも藥酒、露酒などあるが、一般的でない

華北一帶の造酒は、おほかた白酒の類でその造酒工場を燒鍋と謂つてゐる北京を中心とする近郊一帶の燒鍋業者は、事變前約五百餘軒、最近は食糧騰貴のため二百餘軒に減つてしまつた造酒の原料は主として高粱で粟と玉蜀黍之に次ぐ。先づ原料を碾いて之に大

甑に入れた原料を高粱稈で焚く

原料倉庫

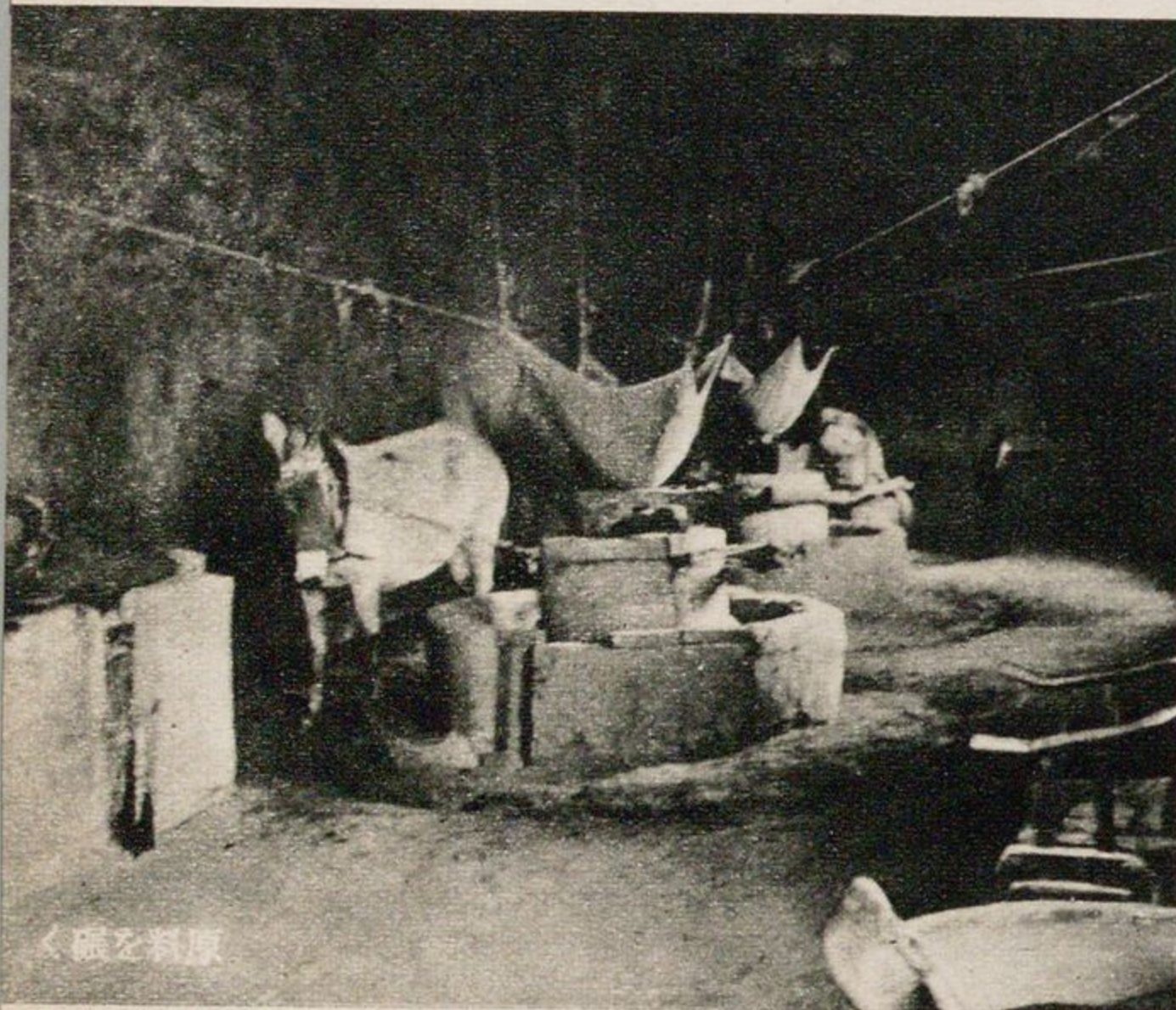
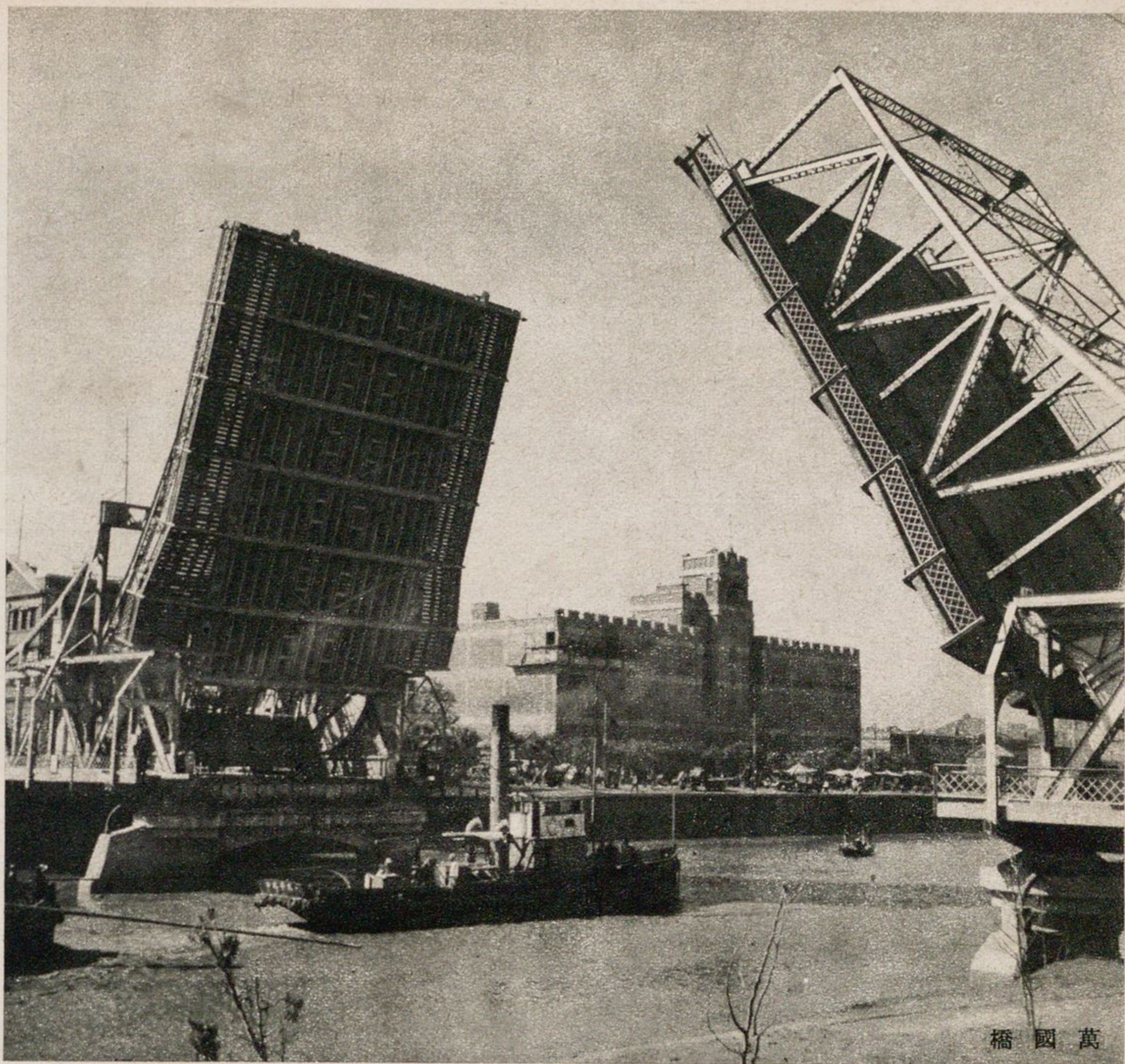
原料を碾く

麥製の酒麴を加へ、それを甑（壺形の鍋）に入れて、下から高粱稈で焚く。さうして蒸出した水分を冷却すれば燒酒になるのだが、これは三度繰返す。三度目によく混和したのが所謂原酒でこれに適當に水をわつて賣出すのである。燒鍋から各大酒店に卸し酒税を納める。酒店から酒舖（飲み屋）に賣り最後に人が飲むと云ふ次第である。各燒鍋の人夫を俗に糟腿（ツァオトイ）と稱して、甑の多少によつて定るが平均各戸百人位を使傭してゐる。その待遇は甚だ薄く月給十圓前後、ただ夜業の賃金、正月の賞與を加へて百圓餘、或は五、六十圓と一定しない。現在北京全市の酒の販賣量は毎月四十萬餘斤、其他私運（税金不納）の酒あるも計上し難い。市中大酒店の商會に加入せる者二十二軒、加入せざる者四十餘軒、其他、酒舖無數である

序乍ら警告を發して置き度いのは最近現地邦人の白干酒を利用する者多き事である。白干の性質、飲法を知らざる爲多量に飲んで健康を害ふのは時局柄憂慮に堪へない。白干はアルコホル含量六乃至七割、世界に類なき強烈酒であるから、飲む時は必ず脂肪分を食べて胃壁を防備せねばならぬ

How the Chinese "White Wine" is Brewed

裏庭にならべられた燒鍋

酒壺

萬國橋

Tientsin Snapshots

天津 その一

天津は一八六〇年の北京條約によつて開港された北支第一の貿易港である。この天津港の生命線とも云ふべき白河は、北支那において海洋船舶が航行出來る唯一の河で、源を長城の獨石口に發し、通州、天津を經て大沽口で渤海に入る全長八十哩の河である。白河の名は河口から天津まで蛇のやうにウネウネと九十九回曲つてゐるので百の字から一をとつて白河といふのだと云ふ俗説がある

河水は黄土のためドロドロとコーヒミルクの樣に黄濁してゐる。河北と河南を結ぶ南運河、山西省から流れて來る子牙河、遠く蒙疆の山中に源を發してゐる永定河等の河川が天津で白河と連なつてゐる。天津が今日の大をなしたのもこれらの水運の要衝にあたつてゐる爲であらう。滿潮時になると河口の塘沽から天津まで一千トン級や二千トン級の船が遡つて來る。昭和十三年の輸出入總額四億一千萬圓、北支貿易額の七割を占めてゐる。輸出品の主なるものは棉花、加工卵、豚毛等で輸入品は小麥粉、木材、機械類である

北京を我が京都とすれば、天津は丁度大阪に當る。北支の門戸として一大貿易港であるばかりでなく、北支第一の工業の中心地で紡績、製粉、マツチ、製油等の工業が盛である。事變後、紡績業を中心とした邦人の進出は目覺しい

樞軸親善――日・伊兩國の勇士たち

英租界ヴィクトリアロード

天津　その二

天津の外國租界は北清事變前後に設定されたもので、最初は日、英、佛、伊獨、露、白、墺の八租界であつたが歐洲大戰によつて獨、露、白、墺の四租界は回收され、日、英、佛、伊の四つだけになつてゐる

各租界は各國思ひ思ひに自國の文化を取入れて經營しただけあつて道路に、建築に、或は交通巡査の服裝に、各國の特色が流露してゐて、各租界とも獨自の風格を持ち、ちよつと各國の縮圖を見るやうな氣がする。

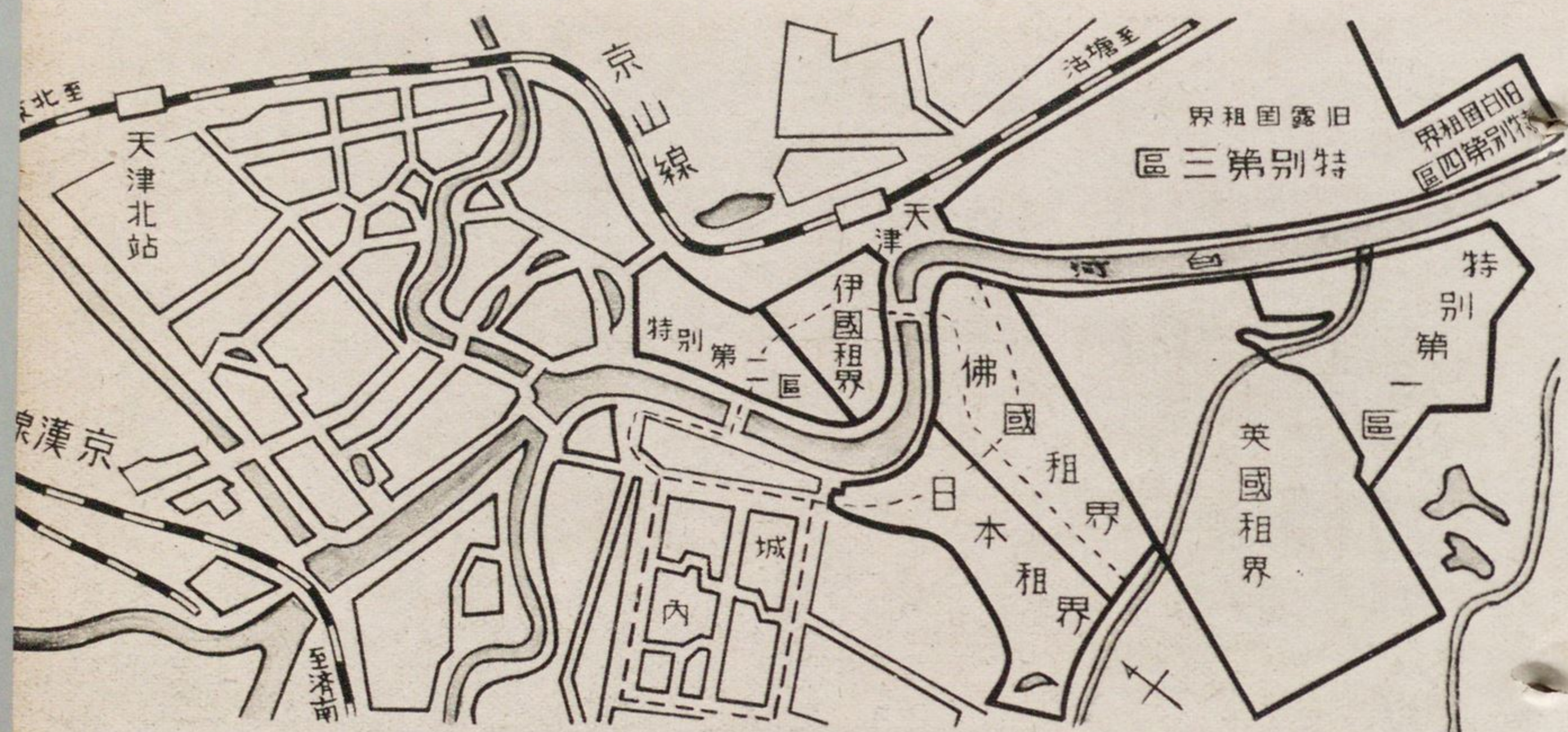
回收された獨、墺、露、白の各租界は特別第一區、第二區、第三區、第四區として支那側によつて特別な行政が行はれてゐる。事變後、英佛租界は國民黨軍並びに共產黨の巢窟と化し、新生中華建設の癌となつた。昭和十四年六月、日本軍はその敵性排除を目的として英佛租界の隔絕を行つたが、その後數次にわたる會談が續けられて英佛側もその非をさとり治安、通貨、現銀の三問題の圓滿解決を見たので翌十五年六月滿一箇年の隔絕を解除した

友邦伊太利租界は白河を隔て日本租界の對岸にある。日曜日など日本租界に買物にやつてくる伊太利兵と日本の兵隊さんとの微笑ましい親善振りを見ることも出來る

天津の在留邦人は昭和十五年十二月末の調査によれば五萬三千四百七十六人で、事變前昭和十一年一月末の八千五百十七人の六倍半といふ激增振りを示してゐる

天津市街略圖

佛租界苦力の麵粉運び

Old Chinese Paintings

撲蝶仕女圖

杜 霄 筆（五代）

宋の書「圖畫見聞志」に載せた五代の畫人九十一名の一として、「杜霄、たくみに士女を畫き、姿態の妙に富み周昉の旨を得たり。鞦韆、撲蝶、呉王避暑等の圖、世に傳はる」とある。「佩文齋書畫譜」には、呉越の部に容れ、この種の女人畫家として、ただ杜霄のみを擧げる。呉越の國したのは五代中期から宋初にかけて（皇紀一五六〇年頃から一六三八年まで）約七八十年である

當時、畫は南唐最も盛で、仕女の大家周文矩がある。「牛戩畫評」には、「仕女の工はその閨閣の態を得るにあり、唐の周昉、張萱、五代の杜霄、周文矩、下つて宋の蘇漢臣の輩に及ぶまで、みなその妙を得たり。施朱、鏤粉、鏤金佩玉、以て飾らざるを工と爲す。余、嘗て宮女圖を見たり。文矩の筆なり。玉笛を腰間帶中に置き、目に指爪を見る。情意凝竚、その思ふ所あるを知る。」と

移してこの杜霄の圖を睹る。杜霄の圖は、「宣和畫譜」に「五代、杜霄、御府所藏十有二。撲蝶圖八、撲蝶仕女圖一、撲蝶詩女圖二、遊行士女圖一」とある。本圖には「撲蝶仕女圖」とある。その字體は宣和の藝術皇帝徽宗に髣髴してゐる。「仕女」は乃ち「士女」と同じからう。畫の上頭正面に「宣和殿寶」左傍下に「政龢」の印がある。まさに宣和御府所藏の一つであつたかもしれない。唐末から此の時代にかけて仕女圖及びこの類の美人圖は、一種の流行的好畫題であつた。しかし、杜霄の前にも後にも、「撲蝶」は見當らな

い。この人の獨自得意の圖題であつたらしい

この圖は大幅である。唐美人の型でありながら、やゝくだけて自由に、モダン化された運動があり、しかも宋畫ほどの勁奔と、ぎこちなさでもない。五代畫たる所以である。やゝ横張つて上から抑へつけたやうだが、姿勢は運動して、すべては、左へ吹かれ流れる。

この畫の焦點、また最美點は顏面にある。蠶蛾の眉、黒曜の瞳、通つた鼻筋緊まつた一字口。廣やかな額に、ふさふさとした生え際。ふつくりの兩頰から、やゝ短かすぎる下顎に、えも言へぬ愛くるしさを無限ならしめる。何といつても、あの眼の嬌態が魅力の泉である。その、やゝ眇目な睨みに、表情の神祕がある。じつと、凜と、あの目でにらんで、唇しめて、草の葉末におののく蛺蝶を、パツと一と撲ちと、唐團扇を構へた刹那のエモーション！

この繪畫美はそこから生れる。左右の腕のこなし、左膝のふん張り、腕のひねり、さては、そびやかした肩と、踏みしめた足の爪先、何といふ藝術的な律動とその最高度のリファインであることぞ！　この動感を助長するものは吳裝といつてよいほどの、勁い鐵線描の、はつきりしたアウトラインである。それと好對照して、この勁さに包まれたる、やんはりと纎細な、あの凜とした顏がたまらなく、人をひきつける。

この圖は五代の傑作と斷言してよい。なほ、この仕女の上衣は淡靑、裳は純白、領巾は紫、團扇は薄紫赤、紐も同色。背面欄干は薄紅色で、馬夏風(?)の路面と、勾勒の禾草に輕く蝶をあしらふ外、背景、助景なく、簡化を極める。裳の唐草文樣は實に上乘の圖案藝術である。杜霄については、この時代杜氏の名畫家數人あり、或は秦に出で兵亂を蜀に免れ、更に轉じて杜霄が吳越の地に來たものか？　これは臆斷に過ぎない

竹簾の運搬

清化縣城外竹箸賣の群

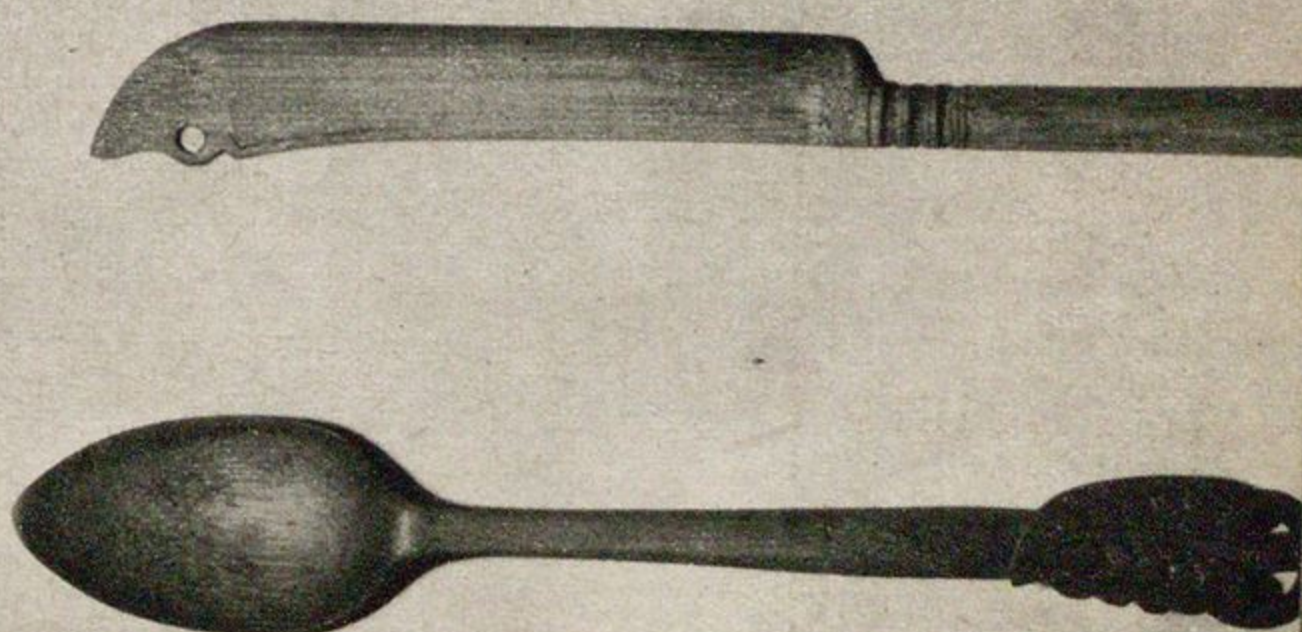
竹籠編み、清化縣城内にて

清化縣城外の竹藪

竹

Bamboo

北京から京漢線の平野をずつと南下して新郷站から西南に分岐する道清線の終點が即ち清化だ。河南も山西の省界近く、北方に太行山脈が延びてゐる。清化鎭城は站から二支里、長方形の角をとつたやうな城壁に圍まれた、狹い乍ら繁盛な舊い街である

清化縣一帶は竹細工を以て天下に名高く、又その竹藪風景は隴海線以南の中支に多いもので北支には珍しい。此邊の製品は主として農民の生活必需品が多く、北京の小細工的な精巧さはないが、正統民藝的見地からしても健全である。最近日本の技術者（別府の人）が入つて改善指導に當つてゐるが、まだ顯著な成果は見られない。竹は寒竹と云つて冬季に採伐するのが普通で、それも四、五年生のものを伐る。因みに此頃當地では竹材減少防止のため素竹移出を制限した

竹製品

竹幹は工藝的に見ておもしろい材質である。乾からびてしかも光りあり、滑かでしかも鋭く、撓かでしかも硬い。木の如く、石の如く、金の如く、平順にして節々、矗々を失はない。これを工するにはまづ勁直の纖維性をことわりとし、性に應じて削り、細め、枉げ曲め、組み、編み、つひには細絲の如く自在に工人の意圖中のものとなす。以て刀となし、剪となせば、鑿々快々刄のままに鬚髯も剃るべく、また以て編纂すれば、小盒、大筐、容の需に應ずべし。圖に示すところ、右から下へ第三圖はナイフとフォーク、その隣に鋏刀、最左の長方なるものは「まごの手」。何れも簡素で極めて藝術的な形體と飾様とを施される。驚くべく高度化された民藝である。斑竹、玄竹をたくみに用ひた二つの小盒子もさることながら、竹絲を編織せる盒、籃、また纖巧そのものである。提籠にいたつては、金漆を以て塗装し、郊叢の一竿、また嬪貫の伴たるに足りる。若しそれ竹筒に山水人物を錐雕し、或は更に竹條に彩絹を捲き、編んで精美な紋繒、畫圖を現はす、織物的技術の上乘なものである

Some Specimens of Chinese Bamboo-Ware

市場に買物——北京

朝の院子（中庭）

運動場のない支那家屋の學校——新鄉

洋車ごっこ——北京

留守宅を守る

華北交通三萬日人社員の中家族を持つてゐるのが一萬六千、その中一萬人が・日本、滿洲、北支に家族を殘して別居生活を餘儀なくさせられてゐる。北京だけでも一千三百戸の留守宅家族がある。誠に交通戰士の勞苦は兵隊に劣らない。事變以來四度目の男の子の節句がやつてきた。父を前線に送り北支に殘る別居家族の支那甍の波の上に鯉幟が流れる

新しい洋服をきて——北京

Children of the N.C.R. Employees Behind the Railway-Lines

龍烟鐵礦

鐵

Iron

石景山製鐵所に於けるコークス製造

西洋の諺に、〃鐵を造る國は富み、鐵を使ふ國は强し〃と云ふ言葉がある。前の歐洲大戰當時、ドイツとオーストリヤの鋼鐵の一ケ年生產額が二千二百萬トン、聯合國が同じく二千二百萬トンで、丁度その生產量が同じほどであつたから、なかなか勝負がつかなかつたのだ、と言ふ人もある。現在日本では郵便ポストが陶製にかへられたり、屑鐵の獻納運動が宣傳されたりしてゐるが、石炭と共に戰時下の日本にとつてまことに重要な物資であり、鐵鑛資源を獲得することは非常時日本における目下の急務である

ところでこれに要する鐵鑛石を容易に且つ速かに安價に供給する地域を求めると、先づ內地、次は朝鮮、滿洲、支那、南洋の順となるが、前二者は埋藏量の僅少、鑛石所在地の邊鄙、または貧鑛等の諸理由で增產增掘に難點がある外に、鮮滿のやうに其の地に熔鑛爐を設備してゐるところからは內地への供給を期待することは出來ない。この點から日本の要求を滿して吳れるのは何といつても支那と南洋である

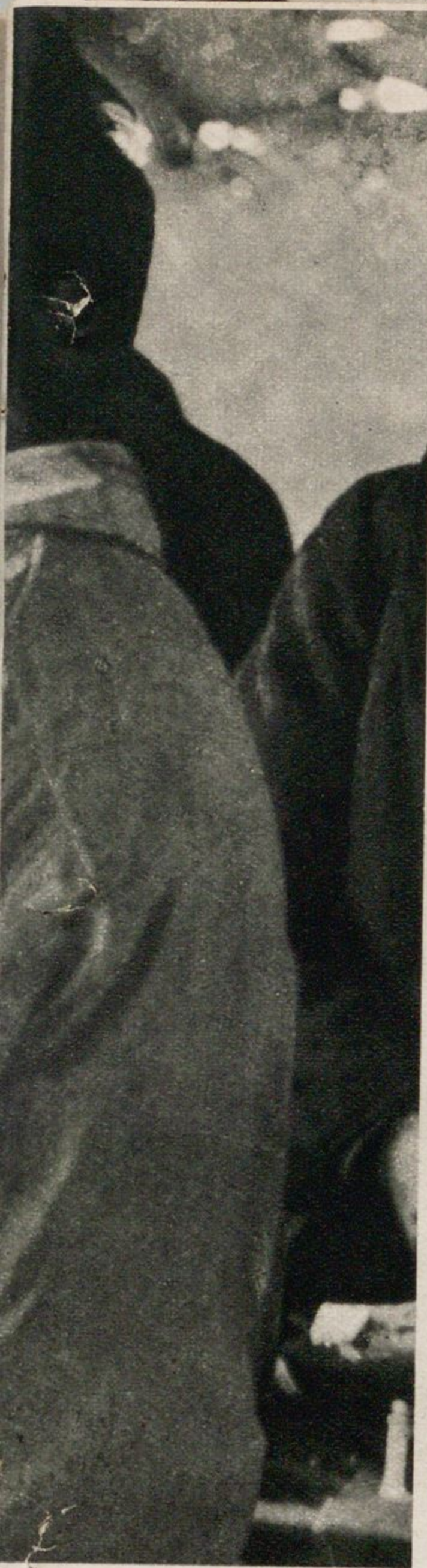
支那の鐵鑛は揚子江沿岸の大冶が日本に有名だが、北支にも多量に埋藏されてゐて、現在盛に日本に輸出されてゐる。北支の鐵鑛の埋藏量については、まだ正確な統計はないが、大體三億萬トンと見積られてゐる。この他、山西省の各地にも相當多量の埋藏があることが最近判明しつつある

支那における鐵礦の利用は極めて古い歷史を有し、鐵器の製作も遠く周時代に始まり、鐵に稅を課することも春秋、戰國時代、卽ち鐵器時代の開始と共に行はれたといはれ、歷代王朝の有力な財源となり、漢の時代には、支那の中央のみでなく、邊境地方にも熔鑛爐があつて、多量の鐵を產して居たと云はれる

ここに特筆すべきことは、支那の鐵が中央アジアを通つて遙々ローマに入つてゐたことである。當時各國からローマに入つて來る鐵の中で支那の鐵が最良のものであつたと云はれる。このやうに歐洲にまで名を轟かせた支那の製鐵事業もその後發展せず、殊に大規模の近代工業に立遅れたので、現在極めて小規模の微々たるものがあるに過ぎない

現在北支の鐵礦中で第一に注目されるものに蒙疆地區の龍烟鐵礦がある。埋藏量は二億トンと稱される大礦山で、北支埋藏量の七〇%を占め、平均鐵分は五六%で、質量共に非常に優秀なものである。採掘は一九一七年陸宗輿が自己の名義で政府に採掘權を出願したのに始まる。その後資本金五百萬元を以て中國官商合辦として龍烟鐵礦公司が成立し、順調なる成績を擧げつつあつたが、その後打續く支那の軍閥鬪爭に祟られて經營不振を續け、その上歐洲大戰後の鐵價暴落に禍ひされ營業中止の止むなきに至つた

その後わが國は、日支經濟提携と鐵礦資源の確保の見地から同礦の開發を促したのであるが、冀察政權の特殊な環境に阻まれて進展せず、支那事變に至つたのである

しかし現在では蒙疆政府と北支那開發會社の手で龍烟鐵礦株式會社が設立され、積極的な採礦を開始しつつある。又同礦の精煉所たる石景山製鐵所も十九年振りに「建設日本」の手によつて世紀の煙を吹き出した。龍烟の外に主なる鐵礦として河北省の灤縣、山東省の金嶺鎭などがある

施療班

チフス菌の凝集反應

North China Railway Company's Hygenic Research Institute

保健科學研究所

華北交通

數千年來自然のままに放任せられて來た北支蒙疆の苛烈な傳染病や夥しい風土病を臨床醫學にのみ任せず、豫防醫學的立場から進んで病菌の實體を摑み氣候風土に適合する衞生的生活環境を建設する爲に、科學的基礎的な研究を行つて廣く人類の福祉に貢獻しようと華北交通會社の手により昭和十五年四月、北京に保健科學研究所が開設された

同研究所は庶務、衞生、豫防の三科に獸疫科を併置し、環境衞生、衞生化學、病理寄生蟲、細菌、血清、結核、獸疫、痘病の八研究室を設けて、人獸相關的な研究を行つてゐるが、これは世界に殆ど類例を見ない新奇な組織形態として注目されてゐる

同研究所は所謂象牙の塔に立籠ることなく、實際的具體的な所にその研究目標を置いてゐる。例へば日、華人の體質の相違、代用食、漢藥、支那家屋の研究、獸疫とこれに伴ふ增産增殖の研究、オリーブ油の代用としての棉實油の研究等はその一端である。この間一般からの依頼試驗やワクチン等の製品の需めにも應じてゐる

設立後未だ日淺くして總てが研究途上にあるのであるが、着々として歩一歩推し進められて行く同研究所の將來には、大なる期待が持たれてゐる

風土病の一つ

北京城外にて

Peking Ducks

家鴨

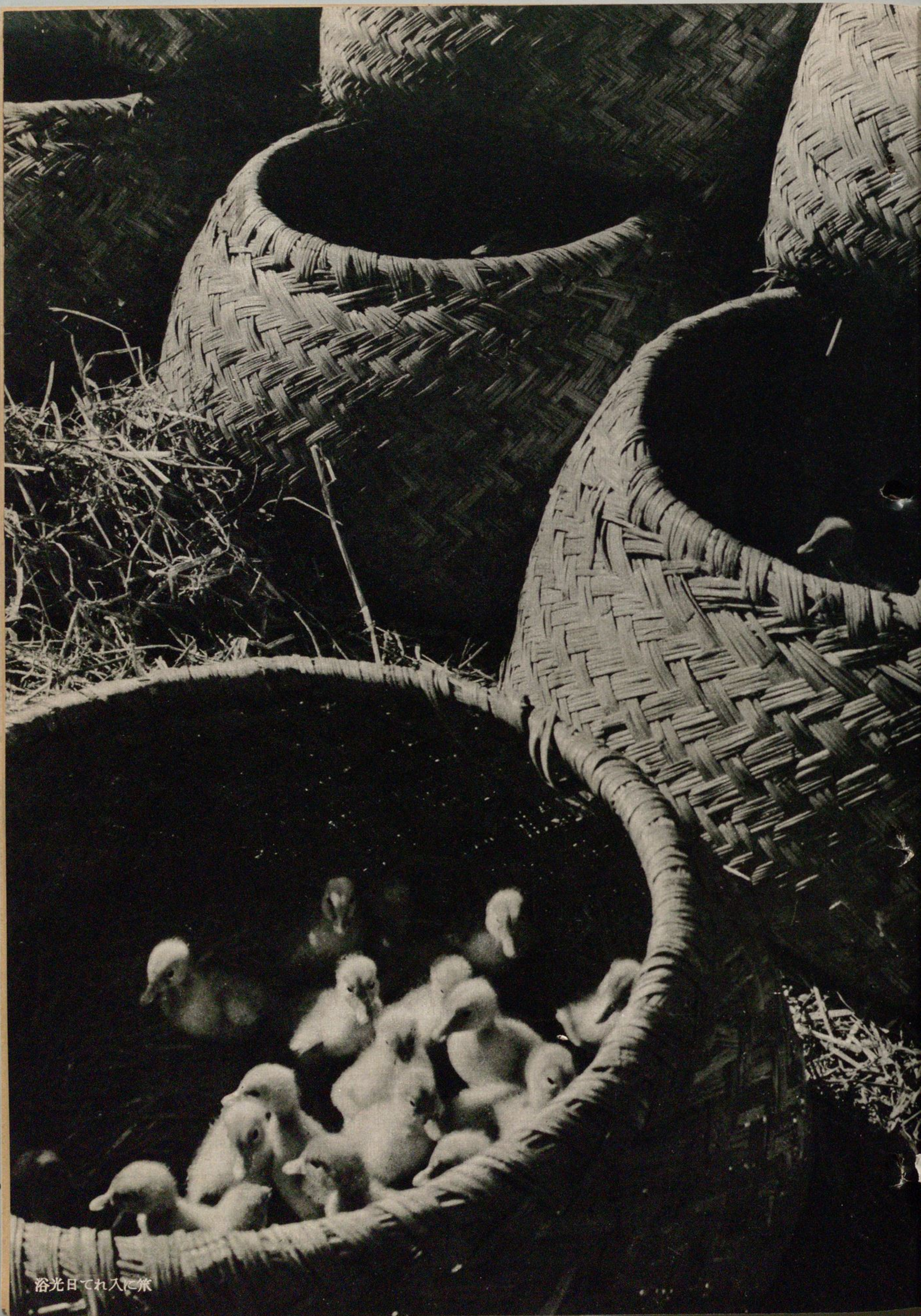
北京名物烤鴨子(カオヤーズ)（アヒルの丸燒）で世界的に有名な北京種のアヒルは支那の原產で體質强健、多產且氣候に對する適應性が大きい所から十九世紀末葉英米に輸出せられ同地のアイルズバーリー種（優秀なるも虛弱）の改良に交配して現今廣く飼育せられる優秀な肉用種の祖となつた

地元の支那では明代から賞用されてゐたといふが民國時代に到り烤鴨子の名は天下の美味として內外に傳はつた。一時、國民政府の南京遷都により消費層が量、質共に低下を見、飼養數が漸減を傳へられたが事變後邦人の增加と共に再び往時を凌ぐ勢にあるといふ

北京近郊に散在する鴨子房（アヒル飼養業者）によつて年々數萬の雛が育てられてゐるが、把師と稱する專門家が管理に當り、寒冷暑熱に對しては寒暖計を備へ炕（煖房）及び戶障子の開閉により溫度の調整をはかり或は他人の舍內に入るを嚴禁する等綿密な注意が拂はれる。かくて生後五、六十日を經たものが丁度喰べ頃となるわけであるが、普通更に二、三十日程塡鴨と稱する肥育法を行ひ體重三、四斤に達する頃市場に運ばれる

鴨子房は玉泉山の淸水をひく北京城外の護城河一帶に亘つて約百五十戶を算するといはれてゐる。數年前までは北京城南方、崇文門外の後河一圓がその中心をなしてゐたが、河水の減少汚濁の爲東便門外附近に移つてしまつた。之等業者が飼育する數は約一萬五千羽（昭和十三年）と云はれ、其他近郊農家で副業的に飼つてゐるものを併せると少くとも三萬は下るまいと業者は見てゐる。此の中大部は北京で消費されるが少數は天津・大連・奉天・日本內地或は南支等に輸出せられてゐる

笊に入れて日光浴

丁香（らいらつく）

北京の花

May Flowers in Peking

法源寺の丁香

中央公園の芍薬

大廟の黄薔薇

藤

胡藤（あかしや）

中央公園の牡丹

無敵！國産第一位

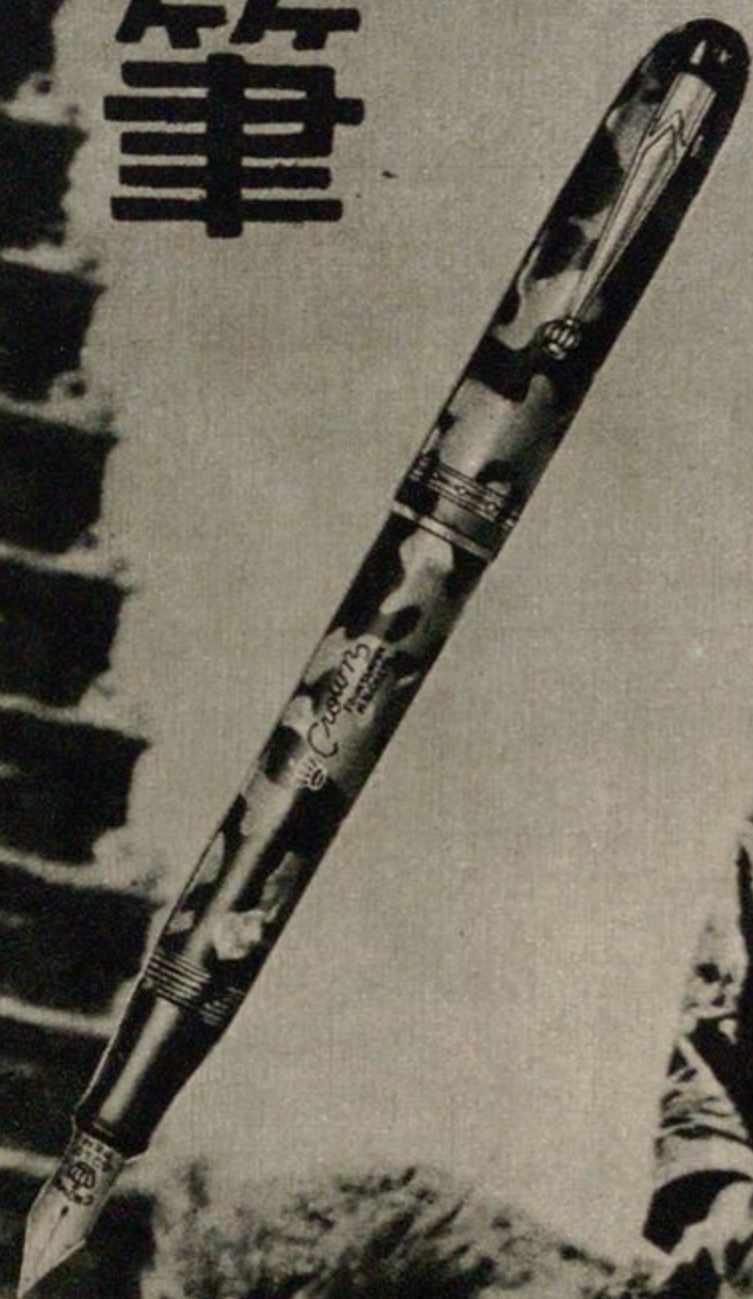
ムッソリーニペン

スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産逸品！

流線型

新生國策イリヂュウム
白金ペン付

クラウン万年筆

書きよく
體裁優美
構造堅牢

―北京郊外・八里莊―

大阪 株式會社 澤井商店

平原驛の記念スタムプ

華北建設と造林

山本憲治

豐な植物と美しい水に圍まれて生活して來た日本人が華北に來て先づ心をうたれるのは山の荒れた有樣と水に乏しい事であらう。誠に此の山地荒廢の爲華北は幾何の人命國富を喪失したか計り知れぬものがある。元來森林の有無が人類の生存、國力の盛衰に重大な關係を持つものであると云ふ事は古くから言はれて居た事であり、近代の林學は幾多の實驗に基いて之を明示して居るのであるが、唯その作用が比較的緩慢であり且間接的な場合が多い爲一般の民衆には左程痛切には感じられなかつた。また現在世界には相當の天然林が殘存して居る事や、林業殊に造林と云ふ樣な仕事は地味なものであり且長年月を經なければ其の成果を見得ないと云ふ樣な色々な事が原因して、兎角世人の關心外に置かれ、普通の政治家や資本家の興味を惹く事少く、常に敬遠され勝であつた。

事變以來華北に就いてもその造林の重要性を認め之を說いた人々も二、三に止まらず又之が爲に日本から派遣された專門家の數も相當に上つて居るが實行の方が一向に捗つて居ないのは如何なる理由に依るものであらうか。之が上記の樣な原因に基くものでなければ幸である。勿論華北の現狀は造林事業の實施にとつて不利な條件下にある事は充分解つて居るが併し不可能とは考へられない。筆者は華北に於ける大造林の遂行こそあらゆる建設工作の根本を爲すものであり且今日の急務であると信ずるが故に以下二、三の觀點からその重要性を指摘し更に世人の注意を喚起したい。

治水と造林　華北が年々洪水に苦しみ之が爲色々の對策が講じられて居る事は周知の通りであるが、此の治水に森林が大きな役割を果すべきものである事に注意せねばならぬ。河川氾濫の最大の原因は山地において浸蝕流出した土砂が河底に堆積し河底を上昇せしむる爲であり、從つて之を防がねば如何に長大の堤防も多數の「ダム」もその用を爲さなくなるのである。而して此の浸蝕防止、或は土砂止めに造林が如何に有効であるかは日本初め各國の實例が之を證明してゐる。日本が明治以來年々多額の國費を投じて荒廢地の復舊造林に努めたのは此の爲であり、朝鮮の諸河川が近來漸次その河底を低下し水害を減少しつつあるのも二十年來非常な犧牲を拂ひつつ實行して來た砂防造林に依るものである事を考へたならば此の華北の治水方策に於て荒廢

內容

山地の綠化、造林問題が如何に重要視されねばならぬかが自ら判明しよう。

農業の振興と造林　森林の荒廢が農業の衰退となり國力の低下、文化の滅亡となつた例は枚擧に遑がない。波斯希臘、西班牙、葡萄牙等の諸國は此の適例であり從來の華北又然りと云へる。反對に森林の造成に依つて不毛の地を美田と化し收穫量の激增となり、或は農家經濟の改善向上となり以て國力の源泉たる農業の振興を見た例又少しとしない。日本における幾多の海岸砂防林は全て此の例であり又佛蘭西西南地方が飛砂防止林の造成に依つて數十萬町歩の沃地を造り多くの產業を勃興せしめた話も有名である。又日本や米國における實驗は防風林の造成に依つて大豆、籾等が三〇乃至七〇％の增收を見た事を報じて居る。此の外水源の涵養や放牧採草地の草生改良、或は燃料、肥料、副業原料の自給等を目標とした所謂農村備林の造成が重要視され朝鮮滿洲等においては着々として實行中である。之等多くの實例は華北農業の振興を計る上に大きな示唆を與ふるものではなからうか。

木材需給の將來と造林　從來の華北はその所要木材の主なるものを悉く海外に依存し、事變前に於ては年平均二百萬石內外を輸入して居り、その大半が米材であつた。事變後は專ら日本材によつてその需要を充して居るのである。國內に森林を持たぬ以上之も已むを得ぬが今後益々激增を豫想される木材の需要を如何にして充して行くか。勿論日本、滿洲國も之が爲援助を惜しまないであらうし又南洋材も利用し得る。併し年需要量一千萬石を突破するのも遠い將來でない事と日滿森林資源の現狀を考へ果して不安なしと云へようか。日本は既に現在その生產力を遙に超えた伐採量を續けて居り滿洲國又自家需要をも充し得ず年々日本より相當量の輸入を續けてゐる。日本政府は昭和十六年度より新く百五十萬町歩の大造林に着手し尙造林實行の爲の特殊會社設立の計畫ありと聞く。滿洲國又政府直營以外に今年造林會社を新設して其の森林增加に努めて居るのは何を語るものであらうか。世界の針葉樹林は今後三十年を出でずして消滅するであらうと云ふ事は各國學者の通說である。而も華北は內に一片の森林を有せず日滿兩國の犧牲において僅にその建設必需物資たる木材を辛じて入手して居る事を思へば假令今日の造林に依り二、三十年後の自給自足が困難とするも近づきつつある世界的木材饑饉に對し出來得る限り兩國の負擔を輕からしむべき方策を講ずる事が當然の義務ではなからうか。

華北交通と造林　以上述べた樣に華北の造林は今日の急務であるにも拘らず實行の方は遲々として進展せず僅かに華北交通會社に依つてその緖が開かれた程度に過ぎぬ。もとより此の事業はその對象が廣大であり且不利な自然的條件の下に行はるるものであるから其の困難なる事は想像に難くはない。從つてかかる事業は到底政府のみとか一機關のみに依つて出來得るものでなくあらゆる人々あらゆる機關が力を併せて進まねばならぬものである。華北交通が創立早々あらゆる困難を排しその先驅をつくるに至つたのもかかる意味からであり同時にそれに依つて將來の鐵道自身の經營に不安なからしめんとする意圖に出たものである。鐵と石炭と木材は鐵道經營上の三大必需物資であるがその木材調達の將來は上述の如く甚だ不安な事情にあるので既にその前身である滿鐵舊北支事務局時代より之が對策に關し銳意研究に努めて居たが、その具體化の一歩として昭和十四年華北交通會社の創立と同時に張家口鐵路局內に林業所を設置し軍、蒙疆政府の援助の下に蒙疆の綠化、鐵道備林の造成に乘り出した。卽ち京包鐵道沿線沙嶺子、大同、厚和に各二五町歩の苗圃を開放し昭和十五年春は同沿線四ケ所において約五百町歩の第一回造林を實行した。年造林面積は漸次增加し四十年內外を以て二五萬町歩の森林を造成する豫定になつて居る。尙之を他の鐵道の沿線にも及ぼすべく調査を進めて居り現に北京、天津、濟南其の他主要地點に八ケ所の苗圃を經營し年々大量の樹苗を養成して居る。この苗木は上記備林の造成に用ふるは勿論その他にも鐵道を洪水、飛砂等の害より救ふべき鐵道保護林の造成或は鐵道愛護村に對する造林の獎勵や又旅客、從業員の慰安保健を目標とする各種造園事業等に用ひられ以て華北の山野を守り資源を增殖し或はその風景を美化する基礎となるのである。尙かかる事業の完璧を期する爲華北交通會社は農林試驗の重要性を認め中央鐵路農場なるものを設立して農林業に關する諸般の試驗に當らしめて居る。以上の諸事業は廣大な華北全體を對象として見た場合必しも規模大なりとは云ひ難いであらうが、その及す影響は色々な意味において期待さるべきものがあると思はれるのである。

（筆者は華北交通資業局員）

同蒲線をゆく

水野清一

臨汾は汾水にのぞんで、その左岸にある。むかしは平陽といひ、堯帝の都である。それで南郊にはいま堯帝廟がある。また近郊にかやぶきの宮居をかまへたといふ茅茨土階があり、鼓腹擊壤をしたといふ康衢がある。なほ南門内には漢字の發明者蒼頡が字をつくつたといふ場所があり、西門外にははるかに仙人が住むといふ藐姑射の山を霧のうちにのぞむ。あたりに數千年の歴史がくゆり、あまい香氣がこの身をつつむ。思へばまことに夢のやうなところである。なほ城内には大中樓、文廟、鐵佛寺、南禪寺などの古蹟があり、やや西郊では平山、平水、龍子祠の名勝がある。平水はそもそも平陽の名のおこるゆゑんであり、その水は數百頃の水田をうるほし、數千の碾磑をまはしてゐるのである。

※

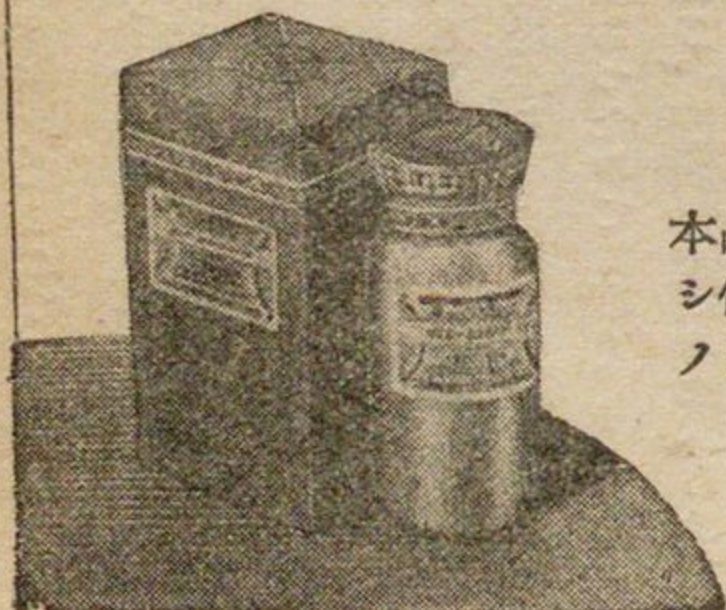
臨汾を出たのはいよいよおしせまつた二十四日、朝八時半の列車である。これから黄土のはざまを通つたり、汾水に沿うてすすんだりする。左手に黄土の段丘がつづき、十二時頃、やがて侯馬鎭につく。南にうす墨の山かげがみえ、汾水は西折する。流れにそへば新絳、稷山、河津方面にいたり、東にむかへば、翼城、陽城、沁水方面にでる。列車はこれから汾水にわかれ、黄土の大地をぬけると、聞喜の平野である。平坦な黄土の平野である。これからますます平野はひろくなるばかりであるが、東の方にはいつも山が見えるつまり中條山脈である。このあたりの人はこれを fung tiao san と發音する。

左手に安邑の塼塔がみえる。八角十三層の宋金塔である。中央に大きなひびがはいつて、あぶなつかしくみえるが、水平の城壁に對して、くつきりと空中にそびえたさまは、實にうつくしい。まもなく列車は運城驛にはいる。

※

ここは縣城ではないが、かなりな城郭がある。それもみな鹽池のためである。つまり鹽池の製鹽とその運搬たのめに發達した町である。貧弱ながらいはば產業都市である、活氣がある。しかし町はばもせまく、どことなくむさくるしく、ゆきかふ人もややおちる、城としての品格ははるかに臨汾におよばない。

けれども、ここにはまたここで由緒のある鹽池廟があつて、臨汾の堯帝廟をしのいでゐる。唐宋以來の石碑も六七十をかぞへ、宋元時代の建築もまた殘つてゐる。そのうへ、鹽池を見おろした輪奐の美はまた格別である。わたくしは、ここでもまた猗氏、臨晉、河津方面へみちぐさを食ひにはいつた。それは禹が切りひらいて、黄河をとほしたといふ河津の禹門口、すなはち龍門がみたかつたからである。禹は黄河の水を治めて、安邑に都した。夏縣にはその廟があるといふ。とにかく、このあたりは支那開闢の帝王に關係のふかい土地であつて、正しく支那文明の發祥地である。支那五千年の歴史が身のまはりにせまつてくるやうにおもへる。

夏縣にはなほ司馬溫公の墓があるといふが、これは殘念ながら見にゆけなかつた。解縣は關羽の生誕地だからこの關帝廟は關帝廟中の關帝廟といふべく、規模も大きいし、信仰もあつい

のである。解縣西關は、關帝廟がこれを壓してゐる。

※

いよいよ十二月三十一日、終點蒲州驛にむかふ。均一の三等車ばかり、車內にはストーヴのそなへつけがある。日支人の混淆もかへつてなごやかな風景といへる。運城發は八時半、一路中條山脈の麓にそつて西南にはしる。車窓には、たえず五六百メートルの山かげがつきまとひ、虞鄕をへて、蒲州驛に入る。十一時十五分。

この驛から城內迄はちよつとある。おりた客は十五、六名ばかり、みな歩くらしい。さいはひ、荷物は幸便の牛車にのせた。眞晝の太陽はぽかぽかとあたたかく、まことに、小春日和である。歳末といへば、內地でももうすこしはさむからうとおもひながら、平坦な道をすすむ。左右は青々とした麥畑である。十二三町も歩いて、やつと東關の城壁に入る。あたりは蘆荻の水たまりに雁がたくさんおりてゐる、鶴も居る。むかふに東門、鼓樓、鐘樓などがはるかに城壁から頭を出してゐる。

※

さて蒲州城內はといふと、まつたく廢墟である。寺もなく、廟もなく、孔子廟さへこわれ、縣公署も消えうせてゐる。それに貧弱な町なみである。城壁はりつぱであるが、町はあれはててみすぼらしい食ひもの屋がならんでゐるばかりである。建物あとには煉瓦がちり、濕地には曹達がふき、水たまりには鳥がおよいでゐる。それに麥畑が青々としてゐる。

しかし蒲州の荒廢記は、決して今事變にはじまるのではない。蒲州は西に黄河をひかへてゐる。滔々として流れる黄河は近年次第に東にうつり、西門外の禹王廟、楊貴妃の鐵牛もすつかり流されてしまひ、ただひとつの石碑が蘆のあひだに頭をもたげてゐるのみである。こんなありさまで、住民も次第に、居を東へ東へとうつし、城內はさびれつつあつたのである。そこへ事變がおきたから、城內の荒廢は一そう徹底したわけである。いづれそのうちには、蒲州の城壁も黄河のなかにはいつてしまふかも知れない。

臨汾・大谷驛の記念スタムプ

※

蒲州はいにしへの蒲坂、舜帝の古都である。黄河のふちで土器をつくつたといふのはどのあたりか。中條山脈の西端、黄河にのぞんだところに伯夷叔齊の廟と墓とがある。二賢が蕨をとつたといふ首陽山はここであらうか。なほ蒲州郊外でみるべきものは東の丘にある普救寺、南の谷にある萬固寺である。普救寺には五代の磚塔があり、萬固寺には明代の伽藍がある。東北すこしはなれると、臺地の南邊に秦漢河東郡の古城址がある。秦漢の蒲坂縣もまたここにあつたのである。

※

一月二日、警備隊特別のはからひで風陵渡へゆく。トラックで一時間あまりのところである。この途中で伯夷叔齊の二賢廟を調査した。

風陵渡にくると、ここから足下に潼關がみえる。黄河のまがりかど、渭水の合流點がみえる。霧につつまれた灰色の景色だが、わたくしは、これをあこがれて、はるばる來たのである。もはやこの黄河の線でこのさきへはゆけないのだとなると、よくもまあここまで來たものかなとおもふ。いま堯舜禹三代の古地に立つて、はるかに、數千年の古都西安をのぞむ。漂渺とたたへられたさ霧のなかに、白くみえる渭水が、わたくしのおもひをはるかに、はるかに、西安にみちびいてゆくのである。

（筆者は東方文化研究所員）

開封の挑筋教

小野勝年

開封城内、北土街の東邊に敎經胡同と呼ぶ横町がある。此の横町名は實は民國になつてからの改稱で、舊くは挑筋胡同と呼ばれて居た。挑筋とは筋肉を挑剔するの義であるが、それが如何にも雅でないと云ふので、稍〻發音の似た、而も多少古意をも傳へ得る敎經に改稱されたのである。然し今挑筋の意味に就いて知つて見ると、よしんば不雅でも、昔乍らの横町名の方がなつかしまれるであらう。

昔、猶太の王子雅各が天帝と角力をして、體の筋肉を傷け、遂に斃れた。後代の猶太敎徒等は彼の死を悼み、牛や羊を食べる際には、必ず其の筋肉を挑剔したと云ふ。猶太人は支那に渡來してからも自己の宗敎を信奉して捨てず、從つて其の習俗である挑筋をも行つたであらう。彼等の宗敎の特色は、神を拜するに偶像を造らないこと、割禮を行ふ等であ る。或は齋戒を守り、眞摯な禮拜を行ふこと等も他の宗敎に見られないところで、これらを通じて甚だマホメット敎〔回敎〕と似て居るが、唯だ一つ挑筋と云ふことは全く後者にないことである。そこで開封では彼等の宗敎を俗に挑筋敎と呼んだ。勿論彼等自身は一賜樂業敎〔イスラエル敎〕と稱して居り、挑筋と云ふ様な俗名は必ずしもうれしい名稱ではなかつたであらうと思はれる。從つて挑筋胡同も不雅と云へば不雅な名前に相違ないが、究古家にとつては却つて捨て難い記念を殘して吳れるのである。

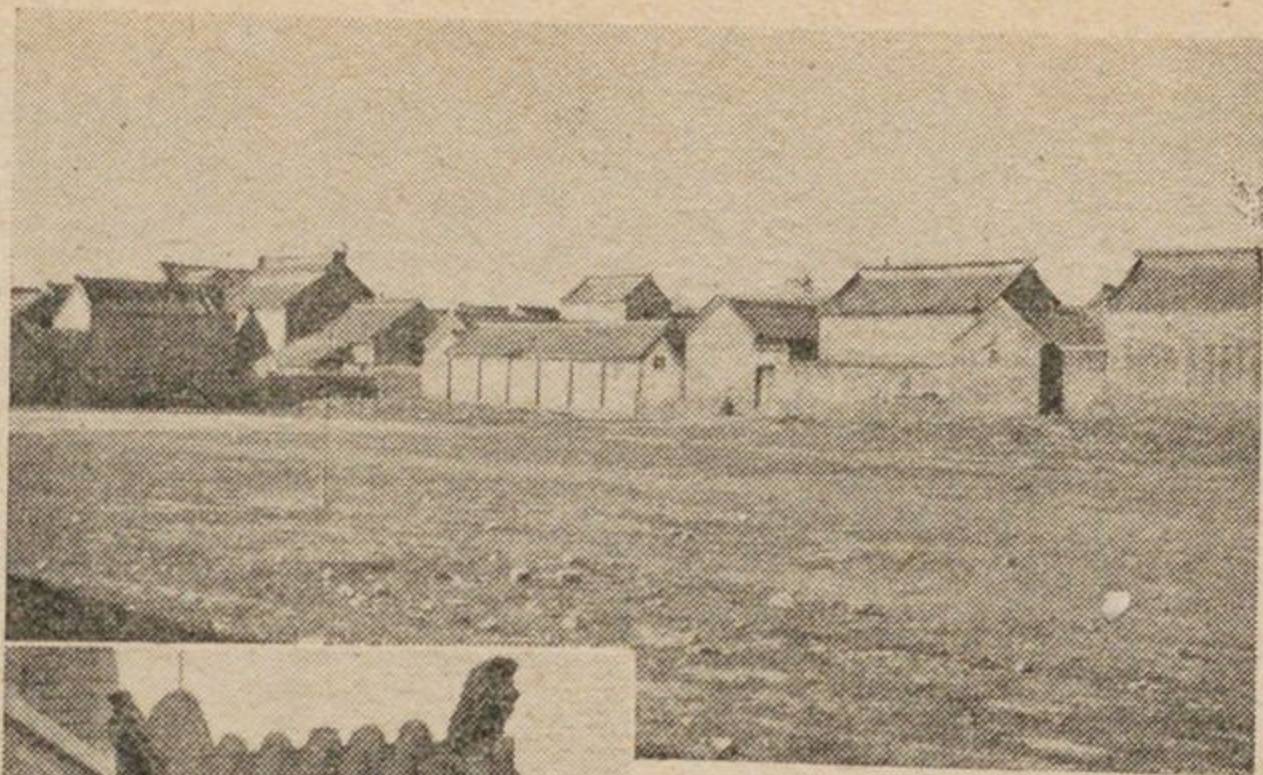
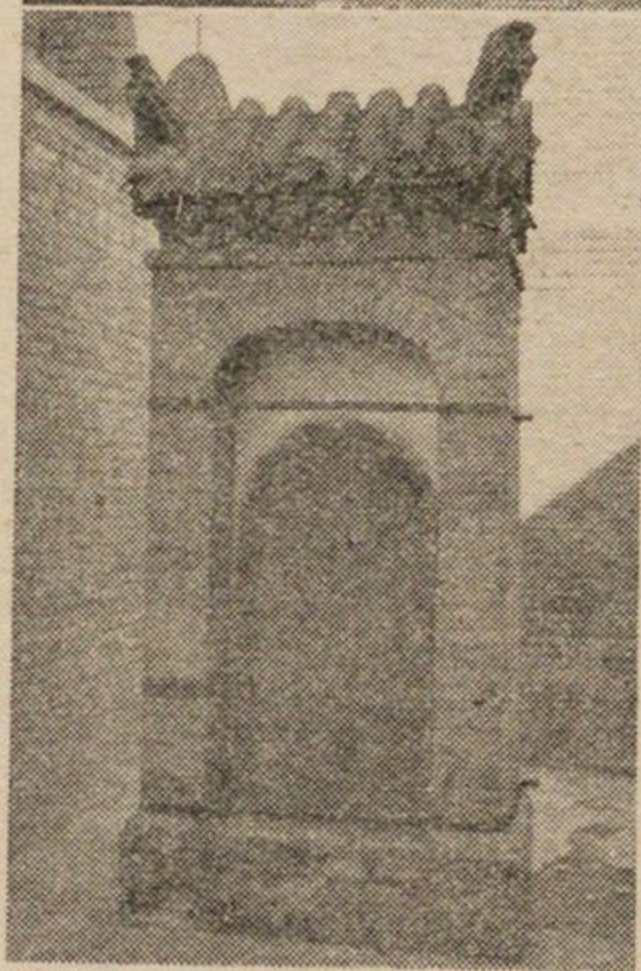
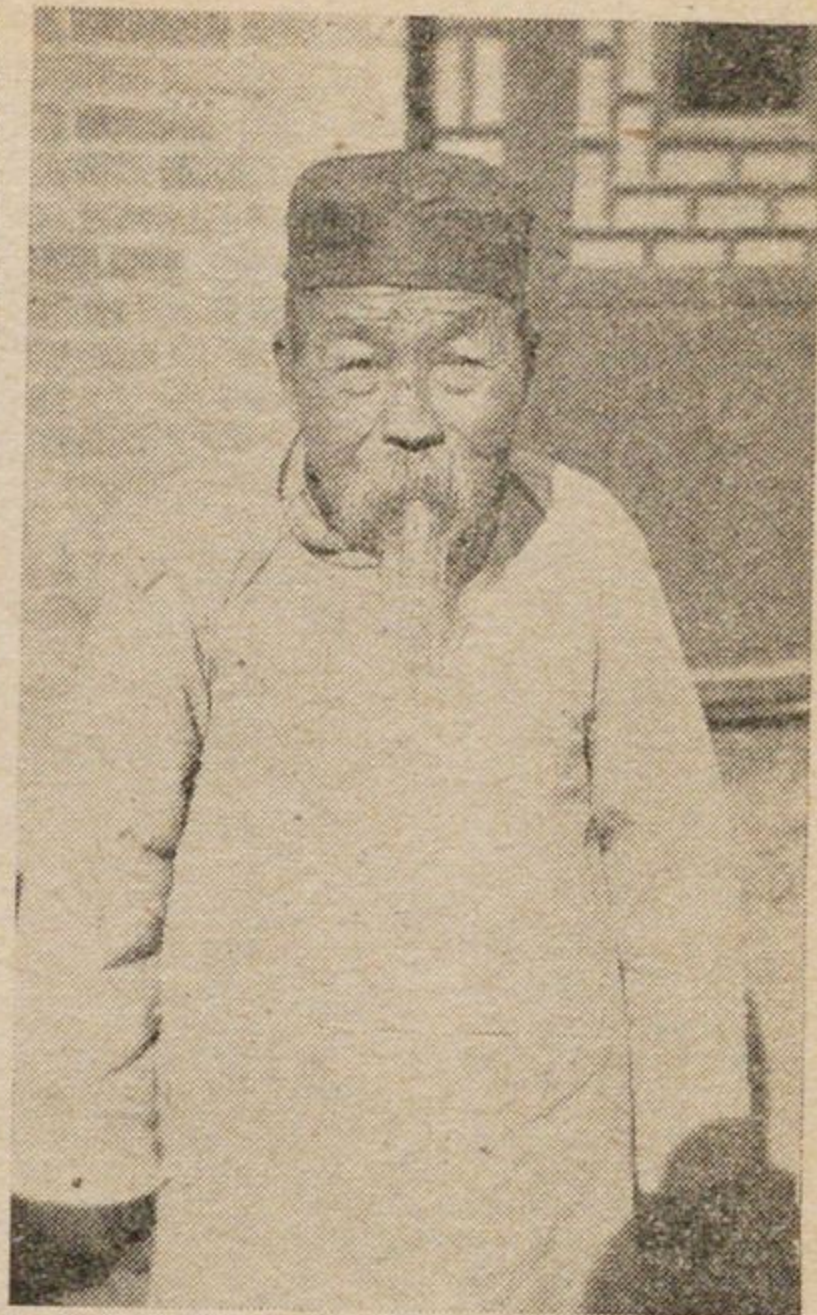
思ひ出すともう一昨年になる。晩秋の或日、石塚鶴鳴さんの厚意で、敎經胡同十七號に趙方才と呼ぶ八十二の老人を訪ふた。彼は猶太人の子孫の一人だと云ふのだつた。會つて見ると其の服裝言語全く支那化して居り、丈は低く、皮膚は黄色で、容貌も精密に觀れば何處かに變つた點も認められたかも知れぬが、一見殆ど漢人と選ぶところはなかつた。彼の語るところに依ると昔開封に來たのは趙・高・艾・李〔二〕石・金・張の七姓八家の者であつたが今は殆んど散じ、交際などもなく、此の地には趙姓の外に艾と石との二姓の者が居るのみである。盛時には北土街から草市街に亙る廣大な地域に寺院があり、これを清眞寺と呼んだ。今は寺院もなく、空地となり、又自身等の日常生活にも昔の宗敎的行事は全く殘つて居ないと云ふ話だつた。導かれて更に其の北側に當る寺址へ行つて見た。然し其處は廣い空地があつたのみで、往昔を語る何物をも留めず、例の重修清眞寺記の碑に就いても曾て唯だ其の邊に捨てられてあつたと答ふるのみだつた。

重修清眞寺記の碑と云つても日本人には餘り知られて居ないであらう。然し歐米人には、例の大秦景敎流行中國碑と共に相當知られ、而も支那宗敎史上重要な記念物で、今日開封の中華聖公會内に保存されてゐるものである。表面には明の弘治二年、敎門の金鍾が撰した重修清眞寺記を刻し、裏面には正德七年、同じ敎門の賜進士出身・朝列大夫・四川布政司右參議の左唐の撰文になる尊崇道經寺記を刻してある。此の碑の存在に依つて唯だ開封のみならず近世支那に於ける猶太敎並びに同敎徒の消息が或る程度まで明確に知られるのである。

思ふに支那と猶太との交通は可成り

舊くから行はれたらしく、「舊約聖書」のイザヤ傳に見えるシニムの國より來れる人々と云ふのは、秦卽ち支那から來た人々の意味だと解せられて居る。

挑筋敎清眞寺廢址

重建清眞寺碑

趙方才さん（當時八十二歲）

降つて唐末に至ると、アラビヤ人アブ・ゼイド・ハツサンの記錄があり、黃巢が廣東を擊破した際、回敎徒、猶太人基督敎徒及び拜火敎徒の大虐殺を行つたと云ふ。更に元代に至つてはマルコポーロの紀行を初め、歐人の見聞錄に屢〻猶太人に就いて記述されて居る。元朝は建國當初の事情から、支那本土を統御するに至り、漢民族を壓迫して外國人〔色目人〕を優遇する態度を固持した。從つて當時は猶太人の來住する者も尠くなく、上記した樣に外國人の見聞錄にとどまらず、支那側の記錄にも、彼等に關することが屢〻見えるのである。卽ち當時の文獻に見える求忽・珠赫・主吾・主鶻等の漢字は悉く Ioudaia 或は Jude の對音を示したものに外ならず、「元史」の世祖本紀には至元二十年に斡脫總管府を設けたことが記されて居るが、これに依つて、彼等を統轄する專司の置かれたこと、更に又猶太人の來住が甚だ多かつたことなどを推測せしめる。

明代には德亞と記し、猶太と書く樣になつたのは清代からのことであるが明から清末に至る迄は元代に於ける如き彼等の著しい渡來は無く、唯だ前代に渡來した者の子孫等が猶相當な數にのぼり、自國の言語を忘れ、漢式姓名を採用し、漸次支那的生活に同化されつつあつた。然し社會的勢力は全く無くなつたと云ふのではなく、中には擧人や進士となり、官途に就いて相當な地位に任ずる者もあり、或は醫師として名をなす者、更に清初の趙映乘の如きは「四竹堂紀異」二百四十卷と云ふ浩瀚な著作すら試みて居る。而も一面には猶太敎を奉じ、儀式に際しては纏頭布及び靴などに皆な青藍色を用ひて回敎徒が白色を用ひるのと相違するところから、青回回とか或は藍帽回子などと稱されて居た。

開封に猶太敎徒の居ることが知られることになつたのは有名な利瑪竇〔Matteo Ricci〕に依つてである。彼は北京で適〻開封の同敎徒艾許僧と云ふ者に會ひ、ヘブライ語で記した聖書を示したところ、艾は其の文を讀誦して深く喜んだ。そこで人を派して其の實を調べしめ、かくて初めて歐人に開封に於ける猶太人の存在が知られるに至つた。それ以後耶蘇會士の此處を訪ひ或は調査を行ふもの漸く多く、ゴザニイに依れば康熙年間には敎徒の數も凡そ二三千に及んだと云ふ。然るに道光の末年、倫敦猶太人耶蘇布敎會が人を派して調査せしめた際には既に三百名許となりヘブライ語を解するものは全く

存せず、其の經典をも手放す有様であつた。しかのみならず、咸豐十年の黃河氾濫の結果、寺院は遂に傾圮の厄を蒙つたと考へられ、其の後、同治六年米人マルテインが此處を訪うた時には實に慘たる有樣となつて居た。

彼の「開封猶太教碑錄」に依ると、「私は曾て清眞寺が建つて居た場所を示めす一の碑以外に、何物をも存しない空しい運命の姿に深く打たれた。其處に到ると人だかりがし、或る者のはアブラハムの子孫だと自稱した。皮膚は混血に依つて此の地方の住民と同樣黃色であつたが、彼等の容貌はさうした主張を確認するかに思はれた。碑記に猶太の婦女の渡來に就いて何等言及して居ない樣に、最初の移住者等は支那の婦人を娶つたに相違ない。私は廢址に立つて、彼の七姓の人の人々にとり圍れ、そして記念碑に手を托し乍ら救世主に就いて語つた。然し彼等の頽廢は筆紙につくし難く、其の破壞された建物こそ彼等の悲しいシンボルであつた。彼等は恥らひ乍ら、寺院が傾圮し初めたので、自分等の手で破壞したのだと云つた。餓死を免れる爲に寺院の石や木材を賣却したのであつた。彼等はヘブライ語を全く忘れ、而も羊皮紙に寫した經典を猶持つて居たが、唯だ買手を待つて居るのであつた。そこで私も二部引受けた。私を懇切に迎へた或る回教の導師が彼等を不信者と非難し、そして一部は回教徒に改宗し、他は佛教徒となり而も其の一人は僧侶の顯職に陞つたと語つた」と記して居る。

清眞寺の廢址に立つた後、碑記を見る爲に中華聖公會を訪れた。快く導かれて、碑前に立つと、高さは五尺前後で稍〻意外に感ぜられる小さなものだつた。若干毀損された部分もあるが、大體意味を知ることが出來得る程度には殘つて居た。而も幸に歐人に依つて早くも拓本が造られたので、其の全文は完全に知られるのである。元來寺院には此の碑の外、康熙二年の重建清眞寺記があつた筈であるが、この方は今日全く其の所在が知れない。然しこれも前者同樣全文が傳へられて居る。これも亦、教義及び祭禮其の他經典及び寺院の沿革などに就いて記したもので其の内容は繁簡の差こそあれ、前者と略〻同じである。唯だ明末李自成の反亂に依つて今次事變同樣黃河が決潰され、開封は水に沒し、寺院も廢し、經典も淪し僅かに二百餘家の教徒等が辛うじて河朔〔河南省黃河以北の地〕方面に流寓するを得、其の後順治十年に至つて再び寺院再建の運びとなり、十三部の經典も參互考訂に依つて繕修されるに至つた始末を詳細に記して居る點が注意され、更に前殿・後殿・聖祖殿・教祖殿・北講堂・南講堂・行殿其の他新建の各建築を列擧して、寺院の規製を窺はしめると共に、道經以外に方經・散經と稱する教規日曆等に關する書物のことをも記し、或は秋末閉レ戶清修一日。飲食俱絕。以培ニ養其天眞一。と猶太曆七月十日に行はれる贖罪節に關する記載等にも及んで居る。

かくて、開封の猶太教徒は金の世宗の大定三年、清眞寺を創建して以來、幾度かの水害を蒙り乍らも、其の都度重修再興を企て、淸の康熙年間までは相當見る可き盛況を維持しつつあつたのである。康熙六十年開封を訪うた耶蘇會士ガウビル及びドメンヂ等に依つて描れた二幅の教堂圖に依ると寺院の配置や後殿の內部が窺はれ、昔日の隆盛が碑記以外のかかる資料を通じても、亦認められる。これらは言ふ迄もなく信仰の熱意を示すものであり、更に其の信仰の背後に於ける教徒の社會的勢力の存在を推測せしめるものである。然るに道光二十九年及び咸豐十年の水害以後遂に寺院重修の擧なく、上記の如くマルテインの訪れた際には教徒が貧窮の結果寺院を破壞して之を賣却すると云ふ哀れむべき情態に陷つて居た。

思ふにかかる貧窮は屢次の水害に依ることが原因の一ではあるが、然し開封の水禍は彼等のみが蒙つたものではない。これが此處に居住する總ての人々の受く可き被害だつたとすれば、復興の勞苦は均等な筈である。果して然らば貧窮の原因は更に他にも求めなければならないであらう。それは既に觸れた樣に明代以後新に猶太民族が渡來しなかつたと云ふことが一である。其の結果前代渡來した者の子孫が惰性的生活を送るに止まり、人口は却つて增加したとしても、支那化の傾向を阻止することが出來なかつたのである。更に明清時代には元代に於ける樣に外來民族に對して、政治的社會的に優越した地位を認めなかつた。殊に清朝時代になると漢人と回教徒との反目が甚だしくなり、中葉以降回教徒の反亂も一再に止まらず、特に同治初年陝西に起つた反亂の如きは光緒時代にまで亙るもので前後十七年、其の地域も陝西のみならず、甘肅新疆に及んで居る。回教と猶太教とが其の性質の頗る類似して居ることは上にも觸れたが、かかる類似が却つて猶太教徒の運命にも禍したことは想像に難くはない。

（筆者は華北交通資業局囑託）

北京日記

春山行夫

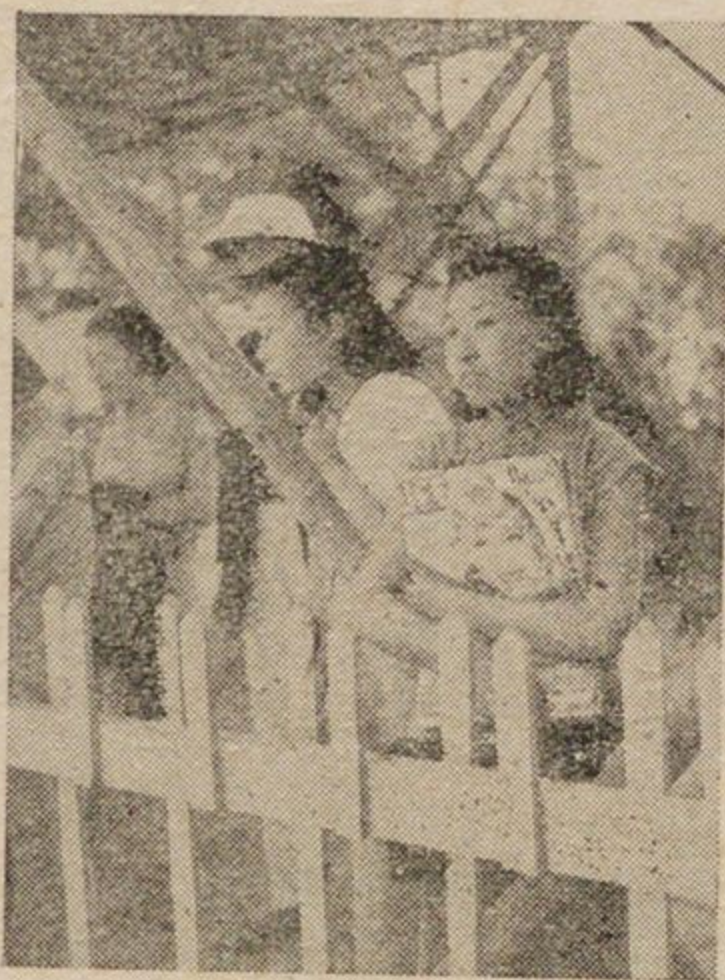
私は奥野信太郎氏の北京だよりの中で「夕方になると晩香玉（ワンシャンユイ）や茉莉花（モオリホワ）を形よく結んで胸や髪に飾つた娘達が瀟洒な着物を着て、北海公園や大街王府井（ワンフチン）あたりを多勢散歩してゐます」といふ文句を、二箇所で讀んだことを思ひ出す。

その王府井大街を曲つた胡同（横丁）の旅館に私は宿をとつた。

その翌朝は日曜だつた。王府井大街へ出る角のキオスクで私は「パイレエト」といふ海賊の繪のついた煙草を買つた。明治時代に「ピンヘツト、ピンヘツト、サンライス、オールド・カメオにパイレイト」と歌に歌はれた煙草である。それから筋向ひの東安市場といふバサーや、北京飯店（グランド・ホテル）などを歩き、王府井の飾窓を一通り見たあとで、その東側にある崇文門大街へ向つて金魚胡同といふかなり長い横丁を通つた。

金魚胡同の出口に、芮克影院（レツクス）といふ映畫館があり、その隣りがY・M・C・Aで、オズバート・シツトウエルが北京で一番いやな建物だと書いてゐる建物である。我々はそこで支那の學生達がバスケツト・ボオルかなんかを練習してゐる室内運動場をのぞき、二階へあがつてP・A・P・C（北京趣味寫眞倶樂部）の内地と少しも變らない藝術的な寫眞の展覽會（會員は全部日本人）を見、さらに三階のアパートの階段をあがつた。

このアパートは事變前まで、排日學生の巣であつたといふが現在ではどういふ手蔓を求めてか、日本の青年も宿泊してゐる。といふのは、我々の訪問しようとするS君がそこに住んでゐるからである。

燕京大學の女學生達

三階の階段の途中に

女賓行此止歩

といふ掲示がでてゐる。女性の客はこれより入らないで下さいといふ意味だといふ。階段をあがつた正面に電話室のやうなボツクスがあつて、そこにも紳士自重あれといふ意味の支那語の掲示がでてゐる。女性を連れて來ないやうにといふ内規である。

S君の隣室のドアに「燕京文學」といふ標札がかゝつてゐる。しかし、どういふ團體だか知らないといふ。私は偶然、このアパートのW・Cに行つた、するとこゝの大便所は西洋便器の見える仕切りが四つほど並んでゐて、その各〻にドアがなく、更紗の短いカーテンが下りてゐた。使用中でないのは、カーテンが開いてゐるからすぐ判るわけである。私はなんとなく「女賓行此止歩」といふ掲示を思ひだした。一種の撃退策らしい。

・

Y・M・C・Aを出ると濃紺色に黄色い帶の入つた「燕京大學專用」のバスが私の前を通りすぎた。

※

その翌日、私は前日のK君とS君に案内して貰つて北京北郊の萬壽山に向つた。フランス系の植物園をすぎると燕京大學の表門に出る。その邊は、北京郊外でも代表的な景色のいいところで、阿部知二氏がここで車をとめさせて、寫眞を撮つたといふ北京のインテリゲンチヤ仲間で有名な場所を敎へられた。小川が流れてゐて、例の北京の3D（Peking Duck, Peking Dates, Pekign Dust）の一つである眞白なアヒルが泳いでゐる。

北京のことを書いたものの中で、不思議に大學のことを書いたものを見ない。私は燕京大學はアメリカ式のビルデイングで、支那人を驚かせるといつたものだと想像してゐたが、入口の門が純支那風に朱塗になつて居り、校内の建物がすべて支那風の落着いた建物であるのを見て意外であつた。

門をはいると門番所があつて、その前に

學校重地
閑人莫入
——
構內ノ立入リヲ禁ズ
University Grounds
Strictly Private

と書いた掲示がでてゐた。

S君が門番に用件を話してゐる間、私はカメラを出して、むかうから自轉車にのつてくる女學生をスナツプした。つづいて二人の支那服の學生がきたのでこれも撮しとつた。

S君が教授に逢ひにゆくといつておいたから、構内を通り拔けようといふ。その前に大學の紀要を貰つてくるといつて、正面の事務所へ行つたが、現在は休暇で誰もゐないと言つて歸つてきた。この大學の教授に招聘された鳥居龍藏博士は不在であつた。(三日後私は大同の石佛寺で博士に逢つた)

燕京大學は敷地一二五エーカー、建物の數は三十、建築設計はヘリン・キラム・マーフイ、支那風に西洋風を加味したものだと英文「北京案内」に書いてある。またこの學校の寫眞がことしの『ライフ』の二月號に出てゐる。それには建築費二五〇萬弗、學生數一〇八五名内、三一五名は女學生だと書いてある。私は池あり、散歩道あり、その中に校舍や教授の舍宅や學生の寄宿舍などが散在してゐる自然の美しさに心ひかれた。

S君が裏門に文房具店があつた筈だといふので裏門へ出る。書きおくれたが、この學校の前や附近には商家や喫茶店や理髪店は一軒もなく、まつたく郊外の大學である。

裏門の外には、ドブ川が流れてゐて、その川に沿つて支那の民家が並んでゐる。S君が一軒一軒見てあるいて、文房具店を發見する。狹い十疊位の支那人の店で大學のスマートなのとは比較がとれないほどみすぼらしい。

日本の大學で使つてゐるやうな學校の名のはいつた封筒、便箋、答案用紙原稿用紙等などの外女學生の使ふ色紙の便箋、花王石鹼、資生堂石鹼、模様入り安ハンカチ、利華石鹼、Sunlight-aoad. Chesterfield toothpaste などが並んでゐた。ちよつと學生の私生活をのぞいたやうで、氣の毒な氣がした。私はなにか新しい文房具や本があるだらうと思つたが、さういふものは北京の町へ、學校專用のバスで買ひに出るらしい。

※

後日私は北京大學、輔仁大學、ロツクフエラー財團による協和醫科大學等に連絡の劵をとつて貰つたが、私に充分の時間がなかつたので、四日目の午後、各大學の外觀だけを見てまはり、寫眞を撮つて歸りたいと、賴んでおいた。

北京大學は、農學院や醫學部などが分離して散在してゐるので、國文學科へ行つた。

ここには軍服を着て襟章をつけた警備員がゐた。割合狹い建物一棟だけで、奥に總長の邸宅があり、そこにさらに門番がゐた。私が警備員の寫眞をとるとあとで一枚下さいとしきりに賴んでゐた。

※

輔仁大學は一名をカトリツク大學といひ、病院のやうな建物であるが、正面中央の屋頂に陶器でつくつた綠色の十字架が美しくかがやいてゐた。私は學校の前にある運動場に入り、裏路へ拔けてみたが、テニスをしてゐる學生一組がゐたきりで、學校は休暇であつた。

この日は他へまはつたので、ロツクフエラーの醫科大學を見たのは夜であつた。この建物も支那風な樣式が加味されてゐた。

北京の各大學は、學校の出版で立派な學術雜誌(英文と支那文)を出してゐる。

私の撮つた北京の大學のフイルムが翌日、張家口附近の列車内で、蒙疆治安部委員に沒收されたことは殘念であつた。

支那傳說 1

牡丹燈記

（剪燈新話卷一）

武田光郎

浙江省の明州では毎年正月の十五日から五日間燈籠を軒先に吊して祝ふ慣習があります。その日になると明州の町はこれを見物に來る人達で大へん賑ふのです。元の至正十二年のことです。明州の町はづれ、鎭明嶺の麓に喬生と云ふ者が住まつてゐました。妻に死別し、その上父母もない寂しい鰥夫暮しなので、十五日の夜が來ても何んの感興も湧かず、ただぼんやりと門に佇んで往來を眺めてゐました。夜が更け人通りが少くなつた頃、喬生の前を二人の女が通りかかりました。よく見ますと一人の女中が牡丹燈籠を手に持ち、その後から、年のころ十七、八の女が弱々しげな足取りで歩いてゐます。月光に照らされてゐる顔は神々しいまでに美しく、紅い裾や綠の袖がなまめかしく目を魅きます。喬生はなんとなくフラフラと二人の女の後を尾けて行きました。前になり、後になつたりして歩いてゐますと、ふと女が振返りほほゑみながら喬生に話しかけました。

「約束もしないのに、こんなに心好い月夜に貴君と偶然にお逢ひするのはまことに不思議です。何かの因緣でせう」

喬生は嬉しくなつて、女の前に進み出て、

「私の住居はすぐ其處です。お立寄りになつては如何でせう」

と云ひました。女は何のためらひもなく、女中を呼んで、

「金蓮、ぢや、お供をしませう、お前燈籠を持つて、さきにお歩き――」

と云ひました。二人は手を携へて喬生の家に行きましたが、そこで二人は昵んでしまつたのです。喬生が女に姓名と住居を問ひますと、

「妾は符麗卿と云ふ者です、字は淑芳、父は奉化州の役人でしたが既に亡くなり、今では家もなく、兄弟もなく、妾一人ぼつちです。金蓮と二人で湖西に家を借りて住んでゐます」

女の答へる態度はまことに、しとやかで、可憐な風情でした。

翌朝になると女は泣きながら金蓮と歸つて行きましたが日暮になると又やつて來ました。さうして半月ばかりがたつてしまひました。

喬生の住居の隣に一人の老人が住んでゐましたが、どうも近頃喬生の樣子が怪しい、少し變だとばかり、壁の穴からのぞいて見ますと、うす暗い燈の下で美しく粧つた髑髏と喬生が坐つてゐるではありませんか、老人は大へん驚きました。

翌日の朝、老人は喬生を訪ねて、之を訊ねてみましたが、喬生は始めの內はどうしても包みかくして老人に打明けません。老人は嘆息して、

「貴君は大へん若くて、前途ある身だが、あの世の邪氣に取付かれてゐる。そして貴君と一緒に居るものが、どういふものか自分では知らないのだ。悟らないのならば仕方がない。氣の毒だが貴君はやがて死んでしまひますよ」

この話を聞いた喬生は始めて驚き、そして今までの事情をすつかり老人に話してしまひました。老人は

「それでは湖西に行つて女の事情を調べたらいいでせう」と忠告しました。

喬生は敎へられた通りに湖西に行つて橋の下、堤の下、到る所を探し求めその邊に住んでゐる人達にも尋ねて見ましたが、誰一人として女のことを知つてゐる人はありません。さうかうしてゐる內に日が暮れて來ました。湖西のほとりにある湖心寺にしばらく休むことにしました。そして寺の中の東の廊下や西の廊下をぶらりぶらりしてゐるうちに西の廊下の盡きたところに一つの暗い室があるのに氣付きました。ふと、中へ入つて見ると旅人が預けたものでせう――柩が一つ轉つてゐました。その上に白紙が貼つてあつて、それには

「故奉化州符役人之女麗卿之柩」と書いてあり、その前には牡丹燈籠が吊され、燈籠の下には女の木像が立ててあり、その背中には「金蓮」といふ二字が記してあります。これを見た喬生は大へん驚きました。毛髮はよだち、ぞくぞくと寒氣がして滿身に栗が立つ樣な思ひです。たまらなくなつた喬生は後も見ずに寺を驅け出し、その夜は老

人の家にとまりました。喬生の怖氣づいた様子を見た老人は可哀相に思ひ、

「玄妙觀の魏法師はもと、開府の王眞人の弟子で、まじなひでは天下の第一者です。早く行つてまじなつて貰つたらいいでせう」と教へました。

そこで夜の明けるのを待つて喬生は玄妙觀の法師を訪ねました。法師は喬生の入つてくるのを見て驚き、

「貴君の身體には妖氣が漂つてゐる。どんな用件で來たのです」と訊ねました。喬生は床に跪き法師を拜し、くはしく事情を述べました。そこで法師は二枚の御符を喬生に與へて教へました。

「一枚は門に、一枚は室に懸けて置くのです、そしてこれからは湖心寺には行つてはなりません」

喬生は有難く教を受けて歸り法師の云つた通りにして置きますと、果たして女達は訪れて來なくなりました。

それから一ト月が經ちました。或晩喬生は衰繡橋のほとりに住んでゐる友達を訪ね、酒を飲み、醉ぱらつてしまひ、つい、法師の戒を忘れてフラフラと湖心寺のある方へやつて來ました。丁度寺の門へさしかかつたところ、不意に金蓮が現れ、

「お孃さんは、久しい間、貴君の來るのを待つてゐました。貴君はほんとに薄情な方です。お忘れになつたのですか」

さう云つて喬生を連れて西の廊下の室へやつて來ました。室の中には麗卿がゐて泣きながら、

「妾と貴君とは偶然、燈節にお目にかかり、貴君の情を知つて以來、何もかも貴君に捧げて仕舞ひました。そして毎晩お逢ひして樂しく暮したではありませんか、それなのに、どうしたことでせう。あの妖しげな道士の言葉を信じて私を疑ひ絶交なさらうなどとは、もつての外です。妾は大へん貴君を恨みました。しかし今日は幸ひにお逢ひ出來て嬉しいことです」

と云ひながら、喬生の手を取つて柩の前に來ますと柩は忽然とひとりでにあかりました。女が喬生をその中に引入れますと柩は又ひとりでに閉りました。その中で喬生はたうとう死んでしまつたのです。

隣の老人は喬生が何時迄たつても歸つて來ないので附近の人々にその行方を尋ねましたが解りません。そこで湖心寺が怪しいといふのでやつて來ますと、西の廊下の暗い室に柩が置いてあるのに氣がつきました。それをよく見ますと、その柩の間から喬生の着物の裾が少し出てゐるではありませんか、老人は大いに驚て、お寺の坊さんを呼んで來ました。柩をあけて見ますと、果たして、喬生の死體が入つてゐました。しかし死後大分日が經つてゐるので助けることは不可能です。女の死體もその中にありましたが、その顏はまるで生きてゐる樣でした。

寺の坊さんは嘆息しながら語りました。

「この人は奉化州の役人、符さんの娘でした。死んだのは十七歳の時であつたが、符さんの一家は皆北の方へ轉任しなければならないので、この柩を預けられたのです。この十二年の間全くの音信なしです」

老人達は喬生と女の死體を一緒にして西門外に葬りました。

その後、曇天の日とか、闇夜などには喬生が麗卿と手を取り合つて歩るきその前を金蓮が牡丹燈籠をさげながら行くのを見る人が度々ありました。然しこれを見た人達は必ず重病にかかり坊さんを招いて功德をすれば少しくよくなりますが、それを怠れば死んでしまふのです。そこで人々は大へんこれを恐れ、玄妙觀の魏法師を訪ねて御符を貰ひ難を防ぎました。

（筆者は華北交通資業局員）

近代新疆省の經濟戰

小松健三郎

中國に於ける西北問題は刻下の重要問題として好むと好まざるに關はらず日本人の是非研究せねばならぬ一大課題である。かかる意味に於て現代の動向を全般的に考察し批判を下し將來への暗示性を求むることは頗る意義深きことであり且興味深い事柄であるが、紙數の關係上特に新疆省を俎上に載せ近代の傾向を瞥見するに留めよう。又示唆する處尠なしとせぬからである、新疆省に關する限り近代の歷史はソ聯の經濟侵略史であり英國の進出史であり、ソ聯英國を中心とする爭史であつた、然も現在歐洲には戰亂ありソ聯亦極東に於いて勢力に汲々たる秋、問題は益々複雜化し、東亞の盟主日本の嚴たる姿と共に寧ろ問題は今後に展開されんとしてゐる。さはあれ近代史を繙いて見よう。

一、ソ聯の政策

その地理的關係より、ソ聯が逸早く商業的關係を結んだ事は當然である。十七世紀の中葉既に露人は本省に於いて各種投機事業に手を染めてゐたが所謂清の順治康熙年間に亙り、眠れる獅子として恐れられてゐただけに露國も亦積極的には出なかつた。十九世紀の中葉、露國が中亞細亞を併呑した後本省へ經濟的魔手を延ばし同治初年支那内地に起つた捻匪亂に呼應して西北の回教が反亂を起し支那政府の無能を曝露するや一八七一年（同治十年）露國は回教の亂に對する露商保護に名を藉り伊犂に出兵次いで阿古柏通商條約を結んだ。一八七八年（光緒四年）再び動亂起るや翌年清廷は崇厚を全權大使とし露國と伊犂占據問題を交渉せしめたが、逆に露國より十八ケ條の協定條項を提出され一應暗礁に乘り上げるに到つた。かくて當時陝西省甘肅省總督左宗棠の如きは憤慨し武力解決を主張朝野各名士も之に和し主戰論者が輩出したが、李鴻章は眞向から反對した爲主戰論者の失脚となり、露支兩全權大使間に談判が進められたが双方譲らず遂に一八八一年（光緒七年）正月右十八ケ條に二十款の改訂を行ひ、さしも揉み拔いた紛爭も終了した。勿論同改正條約は支那側に有利であつたが帝露が赤露に代るや通商條項は踏みにじられ新疆に於ける彼等の經濟政策は鞏固なる地盤を築くに到つた。かくて爾後に於ける兩國は政變に比例し興亡の道を辿つたが結局赤露の勢力を完全に扶殖せしめるに到つた。玆に幾つかの段階に分けて實情を檢討して見よう。

第一期（初期の貿易）——一八八一年伊犂通商條約より一九一四年歐洲大戰勃發まで——

この間露國は伊犂通商條約により對新疆省に於ける通商權を得て全省に亙る貿易業を開始した。而もその營業に對しては支那政府に納税せず恰も商業上は無政府的發展を遂げた。そればかりではない露政府はより一層積極的に對新貿易を奬勵しその進展性は驀進的であつた。從つて一九一二年には既に本省の對露輸出超過は百四十六萬ルーブルに上つた。（露國通關統計に據る）この年の本省に於ける對外貿易は二百六十四萬五千蒲特、内、露國よりの輸入額は八百四十餘萬ルーブルである。本省より露國への輸出高は九百八十萬ルーブルで、當時の貿易品は本省より

原料品、露國より工業製品の交換であり、換言すれば實に本省の工業用品は殆ど露國より仰いでゐたものである。

第二期——一九一四年より一九二四年に到るまで——

この間本省の貿易界は中絶した、一九一四年歐洲大戰の勃發と共に露國はその一役を買つて出たため露國の全機能は戰爭に依り遮斷され對新貿易は一大影響を受け僅かに迪化を始め二三の大市場に於て原狀維持をなすのみで他は殆んど停止されるに到つた、一九一八年所謂大戰が終了するや露國は再び積極的にその恢復に汲々としたが勿論直ちに戰前の活況に蘇り得ず、その年迪化より露國に輸入した貨物は僅かに

棉花　　千五百七十三蒲特
純羊毛　　二萬六千箱
羊腸皮　　四萬五千張
羊　　二萬五千頭

に過ぎなかつた。翌年三月より露國の内訌は漸次熾烈化し再び露政府は本省へ所謂商業政策を浸透せしめ得る暇なく完全に貿易は中絶されるに到つた。

一九二〇年五月露支通商交渉が伊黎に於いて行はれ臨時通商條約が十款に亙り訂正されて以來新ソ貿易は再び回復するに到つた。この年ソ聯より伊犂に輸入された貨物は伊金に換算すれば特七千六百十五萬兩に達し翌年伊犂よりソ聯に多額の綿織物が輸出されるに到つた。また迪化にソ聯より輸入された貨物高は迪金に換算して約十萬餘兩に上り迪化よりソ聯に輸出されたものは四萬六千兩に達した。一九二二年露國は内亂終末を告げ赤色露國となるや國内各部門の工業は全面的に恢復し、これと前後してソ聯の對新疆政策は拍車をかけ終にその貿易額は飛躍的增額を示すに到つた。當時ソ聯より本省に輸入された貨物は迪化金にして八十萬兩、迪化よりソ聯へ輸出した工業原料品は合計十八萬七千迪化兩となり一九二三年には更に增大した。當時のソ聯通關統計表に依れば同年一月より十二月迄に本省よりソ聯に輸入された工業原料品は實に二十一萬八千ルーブルの稅收高に達したのである、然し一九一四年より十年間に於けるこの期間は何れにせよソ新双方の貿易に相當なる打擊を與へた事實は否み得ない。特に新疆省より言へば、ソ聯との貿易中斷により從來輸出してゐた棉花のはけ口がなく、從つて棉花畑は一時盛んに輸出してゐた時代に比較して僅か三分の一に減少せざるを得なくなつたからである。然し一面に於いてはソ聯との通商杜絶は歐米諸國と商業關係を結び、漸次それを濃化ならしめるに役立つたとも否めない。

第三期——新疆省對歐米諸國との經濟關係——

露國の内亂の影響は必然的に新ソ貿易の一時的中絶を招來するに至り結局新疆省としては對外貿易を遠く歐米に求め、歐米またこの機を逸せず新疆省に手を延ばしたのも當然であつた。從つて本省の商品市場には歐米品が散見し歐米にも亦本省品が流通するに到つた。尤も歐米に流通するに當つては商品のルートは支那内地でありこの結果商業ルートはその對象地として上海、天津そして滿洲國の哈爾賓が擧げられるに到つた。

この間の實情については相當面白く研究されるべき處が多いが今は省略するとして兎も角も一九二四年は本省に於ける對外貿易としては歐米が最も旺盛なる一年であつたといひ得る。もしソ聯の勢力が回復せずまた積極的な貿易工作がなされなかつたならば恐らく歐米の勢力は一層大きな地盤の上に根を張つたであらうと思はれる、然し事實は一九二四年ソ聯が貿易並びに經營政策に積極性をもち歐米商業に對し攻勢を執るに到つたのである。（つゞく）

（筆者は新民會囑託）

北支暢談

阿片戰爭

阿片といふのは罌粟（けし）の實の汁から作る藥品であるが、いまから四百年ほど前、煙草のやうに吸ふ習慣が支那でも流行し始めた。この阿片はヨーロツパの海洋國殊にオランダの商人によつて支那にもたらされたもので、英國の印度征服後には專ら同國の手によつて賣込まれるやうになつた。

＊

阿片を吸ふには、寢ころんで煙管の先に阿片をつめ、火をつけて吸ふのであるが吸煙中は大へんいい氣持ちになる。然しこれを常用すると身體にも精神にも大變な害を及ぼすのである。果てにはこの毒のために手足の自由がきかなくなり、腦の作用が破壞され完全な廢人となつて仕舞ふ、その上阿片を買ふには多額の金が必要であり、少々の財產では間に合はない。然るにこの吸烟の悪風習は支那の良民達の間に燎原の火の如く擴がつて行つた。一八二一年の輸入數は五千箱に過ぎなかつたものが、一八二九年には既にその二倍となり、一八三五年から一八三九年の年平均輸入高は三萬箱に飛躍した。そしてこれらの阿片はすべて英國人の手によつて扱はれ、莫大な利益が彼等の懷にころがり込んだのである。

＊

清國政府は何時迄もこの狀態を默過する譯にはゆかず、林則徐に命じて廣東にあつた英國商人所有の阿片をことごとく取上げて燒き、英國との貿易を禁止して仕舞つた。そこで英國は大いに怒り、軍艦を派遣して攻擊を開始した——これが阿片戰爭の起りである。

ヨーロツパ海洋國の攻擊能力の前には、眠れる獅子として恐れられてゐた清國の防備力は脆く、揚子江の要地は短時日の間に、つぎつぎに占領され、遂に一八四二年、南京條約が締結された。

この條約は英國人の阿片賣買の罪については一言も觸れることなく、償金は出す、香港は取られ、上海、廣東、福州、廈門、寧波の各港は開港場となるなど清國は散々であつた。かくて英國はこの阿片戰爭を契機として、支那問題に對する最も有力なる發言權を得支那侵略の魔手を伸ばし始めたのである。

紙の發明

後漢の和帝時代に宦官の蔡倫によつて樹の皮やボロを煮て、それを漉して紙を作ることが發明された。當時の紙は今日普通に考へる紙の形式より寧ろ布に近かつたかも知れない、然しこの製紙法の發明は非常な恩惠を人々に與へた。その後、製紙法にもいろいろの改良が企てられて多くの種類の紙が作られるやうになつたのである。さうして支那の製紙法は程なく朝鮮に傳はり朝鮮を經て我國にも傳はつた。

又同時に西方にも進出して唐の時代にサラセンといふアラビヤ人の國に傳はり、そこでまた改良されてそれがヨーロツパに入つた。西洋紙と和紙とに原料の差別こそあれ、もともとその先祖は同一なのである。そして支那における紙の發明が千八百年も大昔であつたことを思ふと、支那の文化が如何に早くから發達してゐたか驚歎せずにはゐられない。

北京最初の日本人

八萬を突破した北京の在留邦人は今尚增加の一途を辿つてゐるが、さて何時頃から日本人は北京に定住したのであらうか——明治六年、山田顯義第一次駐支公使が二、三の屬官と共に駐在したのがその最初であると云はれる。明治四年に伊達宗城伯、五年に柳原前光子、六年副島種臣伯等の個人來往者があつた。明治七年には臺灣事變の交涉に大久保利通公が、明治十八年には天津談判にのりこんだ伊藤博文公西鄉從道侯、井上毅侯、伊東巳代治伯牧野伸顯伯、野津少將、仁禮少將等の面々、明治二十五年には川上操六大將が朝鮮を廻つて上海に至る途路に、同二十七年には日本公使館員杉村濬氏、松井慶四郎男、日置益氏が來往してゐる。

明治三十年に北京天津間の鐵道が開通するまでは、天津から小舟で通州に上り通州からは駕籠や馬車が使用された。當時の日本人の戶數十戶、人口二十七人、その內婦女子は僅かに四人、その大部分は公使館員及びその家族で職業別に分けて見ると、官吏十名、新聞關係者三名、語學研究者三名、寫眞業者三名、雜貨商五名、理髮師一名、その他二名であつた。その後三年を經た明治三十三年の北淸事變當時には既に、西公使以下約百二十名に達してゐた。

可園雜記

加藤新吉

厨子(チユウツ)については前にも書いたことがある。名は劉、年は四十五。北京料理以外は命じても作らぬ頑固者である。炊事以外のことは特に命ぜられなければしない。がこれは必ずしも此男に限つたことではない。命ぜられてもしないのが寧ろ普通である。支那のやうに人口過剩の國では、自已の分を守り他人の分を犯さないことによつて秩序が保たれてゐるのである。三人でできる仕事も仲よく五人ですることによつて皆が職業にありついてゐるのである。從つて古來勞銀は安かつたのであるがこの頃では決して安いとはいへない。

この劉といふ男、まことに人柄が鷹揚にできてゐて、一向氣はきかぬ代りに、神經的なところ感情的なところが少しもない。謂はば典型的大陸人種で凡そ島國人種と對蹠的である。が、豫め命じてさへ置けばすることだけはちやんとするし、その作る物菜にしても文句なしに食へるといふよりは、註文しなくても季節季節のものを何時もうまく食はせて吳れる。厨子として先づ申し分がないのみならず、この男のよさは一緒に住んでゐて些もその存在が氣にかからないことである。これは主として彼の人柄によるのであるが、また訓練された支那使用人通有の傾向でもある。

支那の使用人は主人に向つて用事以外の口をきかない。道で遭へば道をよけて立ち室內では必ず椅子から起つ。それだけである。朝でも夜でも挨拶も辭儀もしない。家人など初は何だか變だといふので、挨拶をするやうにしつけようかなどと言つてゐたものであるが、今では煩はされなくて却つてよいと云つてゐる。ところで、この厨子、買出しに行くと威張つたものらしく、野菜や肉をぶらさげた店の小僧を從へて、悠々と素手をふつて還つて來る。

一時この男の息子をボーイに使つたことがある。遊ぶことと珍らしいものを買ふことが好きで、ずぼらで仕事がきらひといふ不肖の子、仕立屋の小僧が勤まらずに逐ひ出されたのを家內が拾つて晝はボーイに使ひ夜は日本語の學校にやつてゐた。が結局ものにならず、何かで親爺に叱られたのを機に家に逃げ歸つてしまつた。するとこの十七のチビ、やがてのことに堂々たるお嫁さんを貰つた。年は十九、挨拶に來たのをみて家人共大いに驚かされたものである。

劉の女房はこの息子の嫁と城外に住んでゐて、月に一度か二度訪ねてきて一晩か二晩泊つてゆく。先頃まで五つ位の女の子が隨いてきて、かあいい片言で小鳥のやうに朗らかに喋つてゐたが、かあいさうに二三日病んで急に死んだ。その少し後には女の子が生れてすぐに死んだ。尊族の死を孝行の名の下に大袈裟に弔ふ支那人は、幼兒の死を不孝として極めて簡易に片附ける。劉も至極手輕に片附けて、大して歎き悲しまないのである。流石に大きい方の子が死んだときには、その子をかねて家內がかあいがつてゐた關係もあり幾分暗い顏をして報告した。併し小さい方のときは、劉の妻がひとりで埋葬してから死んだことを知らせに來たといふ話であるが、それも家內が子供はどうしたと聞く迄報告もしなかつた。人間の過剩と高度の死亡率と簡單な始末と深く悲しまないこととの間には、一脈の關連がありさうである。

（筆者は華北交通會社參與）

貿易

北支蒙疆の統計 10

北支對外貿易國別額
1938年

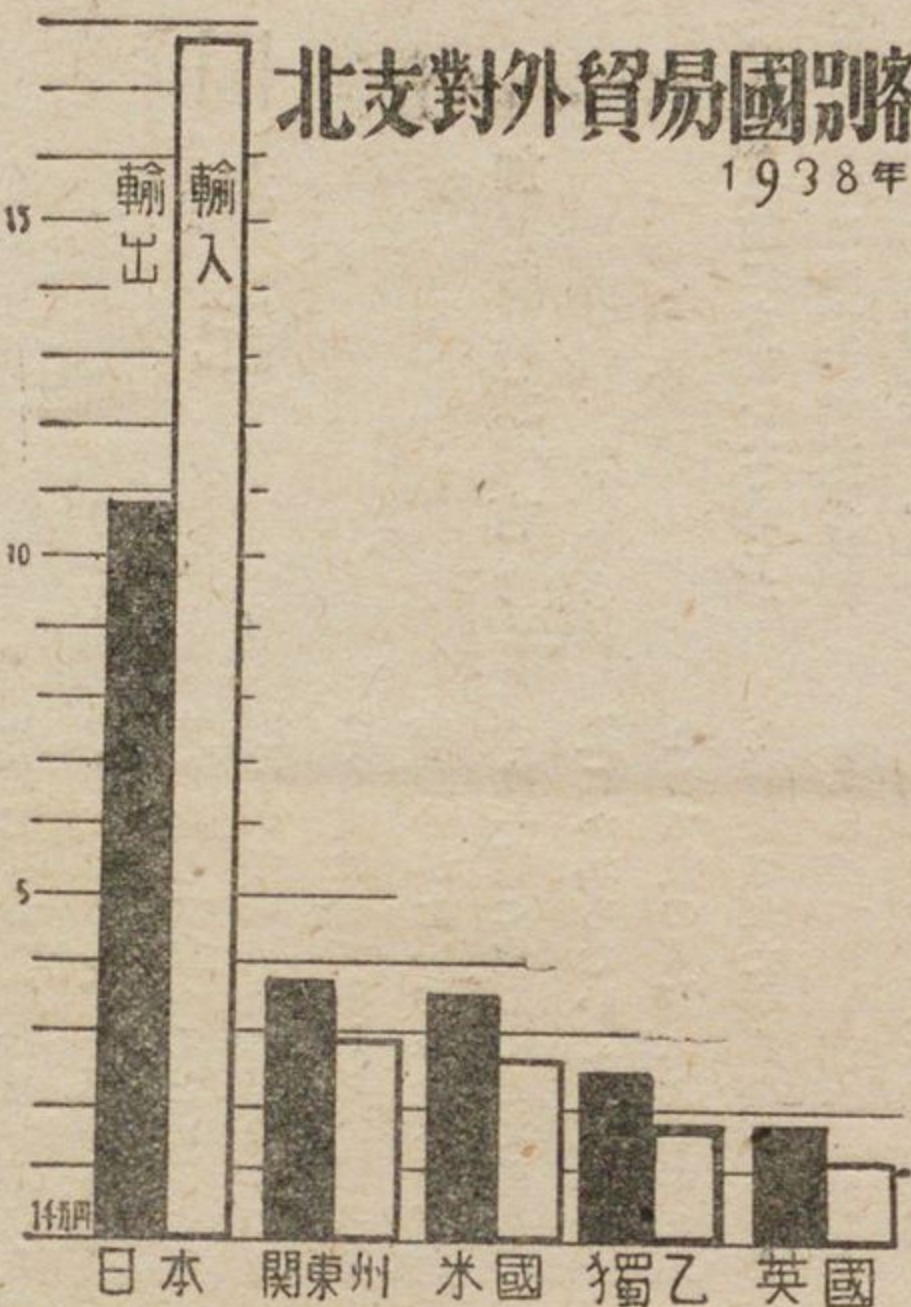
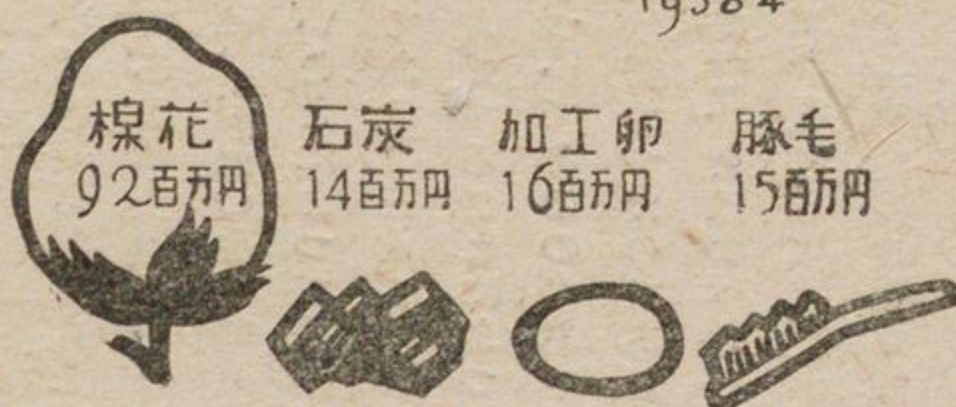
輸入
輸出

日本 關東州 米國 獨乙 英國

北支主要輸出品
1938年

棉花 92百万円
石炭 14百万円
加工卵 16百万円
豚毛 15百万円

北支主要輸入品
1938年

麦粉 24百万円
米 750万円
木材 7百万円
紡績用機械 7百万円
鉄及鋼 730万円

支那の國際貿易は時局の變遷に伴つて此處數年來その變化は目覺しく、漸次好調の波に乘りつつあるが、五億餘の人口と二百九十萬平方哩の廣大なる國土を有する支那の對外貿易に占むる地位は實に微々たるもので、列强に較べると今更ながら一驚を禁じ得ない。一九三五年の列國の貿易額を見ても、日本は四十九億七千萬圓で世界の第五位を占めてゐるに對し、支那は十九億四千萬圓、辛うじて第十七位を保ち、瑞西、チエツコスロヴアキアの如き小國にも劣り漸くデンマークの上位にある狀態である。これをその人口、面積資源に比較すれば如何に支那の産業が未發達にあり、生活程度の低弱にあるかを窺ひ知ることが出來る。

全支貿易額に占むる北支貿易額の地位は、日支事變前輸出に於て二〇%を漸く超え、輸入に於ては一五%を上下する貧弱さであつたが、事變後漸次活況を呈し輸出入共その三〇%を占むるに至つた。一九三八年度の北支六港輸出入總額は五億七千四百餘萬元、その內天津港は四億一千萬元、北支總輸出入額の七一%を占め、次て靑島の七千八百萬元秦皇島の五千三百萬元、芝罘、威海衞、龍口の順位となつてゐる。

に一九三八年度において、輸入は日本關東州、米國、濠洲、獨乙、英國の順位であり、輸出は日本、關東州、米國獨乙、英國、香港の順位となつてゐる。近年來輸出については米國が第一位を占めてゐたが、事變以來日本の躍進目覺しく遂に米國を凌駕して第一位にある。一九三八年の對日輸出は總輸出高の四二・四%、輸入は五五・三%、これを前年度に比較すると輸出一〇〇・八%、輸入二一三・一%の激增を示してゐる。對日輸出品の主なものは、棉花、石炭、加工卵で、主要輸入品は機械類小麥粉、綿織物、木材、紙、砂糖等である。

昭和十六年四月十五日印刷納本
昭和十六年五月一日發行

五月號
（每月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替東京 六四二二三番 一四一五番 三四四四番
電話九段（33）三三四四番

一册定價 三十錢（郵送料五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱 大阪市西區京町堀上通一丁目二五 一手取扱所 一新社 電話土佐堀九三九

次に北支對外貿易の國別狀況を見る

禁無斷轉載・檢閱濟

第一書房戰時體制版　各七十八錢

ヒットラア　室伏高信譯

我が闘爭

盟邦獨逸の聖書!! 暫らく品切のところ十一刷三萬部増刷出來!! 發賣以來二十八萬九千部!! 愈々白熱的賣行!!

今や世界のすべてがこの書を手にしなければならなくなつた。この書は盟邦ドイツの聖書であると共に、全世界の書である。世界新秩序建設の計畫、その計畫への思想的基礎、そしてそれを實現する情熱と力とが、この書の一字一字のうちに表現されてゐる。今次ヨオロッパ大戰の原因が悉くこの書のうちに書かれてゐるのは勿論、その輝やかしい勝利の祕密がこの書のうちに赤裸々に語られてゐる。

法學博士　下村海南

來るべき日本

暫らく品切れのところ二刷二萬部愈増刷出來!!

本書は專ら過去の史實と現在より將來への人の數と質とを經とし、萬古不易の地理的關係を緯とし、すべて事實と數字とに準據して公正に冷靜に世界及び日本の前途を說述し、大東亞のあらゆる民族は固よ

NISSEN

寄生性、瘙痒性 皮膚病に

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黃化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黃を含有す。

適應

疥癬・頑癬・濕疹一切
白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患

包裝

一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)

製造發賣元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社 稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

日染 ムナバール

著

り、歐米その他の列國、殊にアメリカに訴へんとするものである。その所説はあくまで千古の大道により、不易の事實によつて推論せるも

ビタミンB_1の含有量は一錠中に〇・五ミリグラム

胃腸病・脚氣 榮養・發育…に

V・B_1の高單位療法

强 カメタボリン錠は、强力且高單位のV・B_1を含有し、V・B_1の缺乏に基因し特に大量の補給を必要とする胃腸疾患、脚氣、榮養不良、發育障害等……の諸疾患に用ひて胃腸機能を快調にし、弛緩せる胃腸の運動を活潑にして食慾を增進し、病衰せる細胞機能を賦活して榮養狀態を良好ならしめ、脚氣を治療、豫防し發育を促進して所期の効果を收む。

〔適應症〕 脚氣の治療と豫防＝衝心脚氣、妊娠脚氣乳兒脚氣 胃腸無力症、食慾不振。肺結核、肋膜炎肺炎其他の熱性疾患。病中及び恢復期の患者。妊・產・授乳時の榮養補給に。

〔國內價格〕 100錠（三円五〇） 300錠（10円）

☆酵母を添加せる「メタボリン錠」もあり

製造發賣元 株式會社 武田長兵衞商店 大阪市道修町

强力メタボリン錠

41(2)35

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十六年四月十五日印刷納本 昭和十六年五月一日發行（毎月一回一日發行）第二十四號

北支 定價 三十錢